

IEDP環境デザイン統合教育プログラム・都市環境デザインスタジオ2012 東京大学COE『都市空間の持続的再生学の創出』 東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学系

柏の葉アーバンデザイン・アイディアブック

本冊子は、柏の葉を対象とした都市デザインスタジオの結果を受講生の協力のもと、まとめたものです。 柏の葉のまちづくりに興味のある方々にアイディア集としてご覧いただき、様々な議論に役立てられることを期待しています。

都市環境デザインスタジオ 2012 Urban Space Design Studio

東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学研究系共通科目

環境デザイン統合教育プログラム都市環境設計演習 IEDP: Integrated Environmental Design Program 千葉大学工学研究科建築・都市科学専攻(建築学コース)建築システムデザイン II / 東京理科大学都市デザイン演習/筑波大学 UDCK+ 柏の葉国際キャンパスタウン構想連携プログラム/柏市協力プログラム

IEDP環境デザイン統合教育プログラム http://www.k.u-tokyo.ac.jp/j/syllabus/emp/iedp.html

IEDP環境デザイン統合教育プログラム・都市環境デザインスタジオ 2012

東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学系

ヤイディア・ブック 他の葉ァーバンデザイン

目次

はじめに		02
Chapter1	スタジオの趣旨とテーマ	05
Chapter2	プロセス	11
Chapter3	提案	15
Chapter4	総評	70
スタジオを終えて -指導陣からのコメント-		74

はじめに



出口 敦

東京大学大学院新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻・教授 柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK)・センター長

自律的な郊外都市に向けた都市デザインとは

当スタジオでは、柏の葉地区を対象に将来予測のシナリオを描き、現在の地区が抱える関連課題の解決と合わせて 提案を作成してもらっていますが、今年度の課題は、昨年度に続いて柏の葉地区の長期的なビジョンを問う設定とし ました。現役の院生にはやや難しい課題設定だったと思います。「知的クラスター」とう用語は新しい言葉ではあり ませんが、柏の葉地区では、これまで住宅を中心に駅周辺の開発が進められており、今後も低層、中・高層の住宅を 中心にした民間開発が進むことが予測されます。

同地区では区画整理事業により基盤整備が進んでいますが将来構想として2008年3月に千葉県、柏市、東京大学、千葉大学が中心となり、「柏の葉キャンパスタウン構想」(http://www.udck.jp/town/000372.htmlよりダウンロード可)を策定しています。同構想では8つの目標を掲げた都市形成を目指すことにしており、目標の中でも地区が自律的に発展していくためには、快適で便利な住宅地としてのニュータウン開発を目指すのではなく、東京大学、千葉大学の立地を活かしながら、住居以外の機能を地区内に誘導することにより、複合的で文化的な都市が形成され、それが持続的な都市形成へとつながっていくとの考えを関係者が共有し、都市開発を進めることとしています。

ただ、住宅地を開発することと異なり、産業集積がない区画整理された更地に新たな生産活動や文化的活動を創造していくための方法には明確な解法がありません。いわゆる流通団地や工業団地の建設とは異なり、この地域で新たな産業や人材を育成していくための施設や空間はどうあるべきなのか、あるいは、自然環境などの立地を活かしながら、地域社会を豊かにするために住民や就業者のコミュニティの構成員が専門知識や技術を活かした文化的活動を行うための施設や空間はどうあるべきなのか、といったテーマを国内外の他都市での事例を読み解きながら考え、ソフトの仕掛けや仕組みを含めて構想していく必要があります。

大型の初期投資により高度な設備を兼備した施設を建設しても、創造的な活動が急に生み出され、地区内の活動が成長していくとは考えられず、企業誘致も他都市や他地区との競争が激化する中、企業の側から見て明確な地区の優位性が示されないとなりません。創造的活動は、ガレージのような小空間から始動し、起業して成長していく知的活動の成長シナリオも想定されますが、そうしたシナリオに対応した都市開発や都市空間はどうあるべきか、といった観点からのアプローチも必要かもしれません。

今回の課題は、これまで東京のベットタウンを指向してきた郊外都市が自律的で持続的な都市社会を築いていくために必要でありながら、計画的な方法としては未熟で一般化も体系化もされていない都市づくりの方法論にアプローチしていく課題でもありました。そのような困難な課題に対し、各グループは地区の将来像や国内外の事例分析を進めながら独自の提案を作成し、発表して頂きました。

今回の成果が、今後の都市デザインにも活かされていくことを願っています。末筆ながら、視察や講評会などにご協力頂きました方々に心から厚く御礼申し上げます。

指導体制

第1線で活躍する専門家と教員などで構成される充実した指導体制です。

1) 常勤教員

出口 敦 (都市設計学・新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻 教授)

清家 剛 (建築構法学・新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻・工学系研究科建築学 准教授)

清水 亮 (地域社会学・新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻 准教授) 大島 耕平 (建築設計学・新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻 特任助教)

◆ 協働する千葉大学、東京理科大学、筑波大学の教員

安藤 正雄 (建築構造学・千葉大学大学院工学研究科建築・都市科学専攻 教授)

上野 武 (建築家, 千葉大学キャンパス整備企画室・千葉大学工学研究科建築・都市科学専攻兼任 教授)

鈴木 弘樹 (建築家, 千葉大学工学研究科建築・都市科学専攻 助教)

伊藤 香織 (都市空間デザイン・東京理科大学理工学部建築学科 准教授)

村上 暁信 (緑地計画学・筑波大学システム情報系 社会工学域 准教授)

2) 非常勤講師

日高 仁 (建築家, SLOWMEDIA 一級建築士事務所)

三牧 浩也(UDCK 副センター長)

岡本 祐輝 (UDCK ディレクター)

田中 大朗(UDCT【田村地域デザインセンター】副センター長)

原 裕介 (東京大学生産技術研究所 川添研究室 特任助教)

3)特別講師

大野 秀敏 (建築家, 新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻・工学系研究科建築学専攻 教授)

山路 永司 (農村計画・新領域創成科学研究科国際協力学専攻 教授)

横張 真 (自然環境形成・新領域創成科学研究科自然環境学専攻 教授)

斎尾 直子(地域計画・筑波大学大学院システム情報工学研究科 准教授)

秋田 典子 (景観計画・千葉大学園芸学研究科 准教授)

4) アシスタント

金 令牙 (東京大学大学院 新領域創成科学研究科 出口研究室 博士課程)

三浦 詩乃(同上)

5)協力組織

自治体や専門家、企業、地域団体、(柏市市役所、三井不動産、UR都市再生機構、柏市商工会議所、 田中地域ふるさと協議会、市民団体・NPOなど)や市民の方々と地域の視点をもとに議論を深めます。

6) 実施場所: 『柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK)』

UDCKは東京大学が提案・実践する公民学連携まちづくり組織です。柏の葉地域を対象に、自治体や市民 及び企業と連携、街と大学が融合する先端的な環境共生型の地域づくりに向けて計画や研究を進めています。

都市デザインスタジオのあゆみ

2006「柏の葉を拓く130の提案」





50年から100年先の将来を予測し、65の予見と65の企画を考案 した。また、実現に向けた計画、制度、及びプロセスも設計した。

公園や道、農地、林、緑地河川や池といった「空間資源」、居住や 教育研究、交流などの活動に対応する「空間設計」、安全安心、コミ ュニティや地域自治などの「社会システム」、さらに「自治体政策」 や「産学連携」など多様な視点から提案された。

2008「新しい田園都市を構想する」





柏の葉キャンパス駅の隣の柏たなか駅周辺である、柏の葉北部地 域を対象地に、『新しい田園都市』の構想に取り組んだ。ハワード の田園都市のようにまずはライフスタイルの提案を行い、次にそれ を実現する社会システムと空間を設計した。

『田園都市』というテーマについてその扱い方に頭を悩ませる班 も多かったが、最終的に様々なシステムの提案や空間の提案が行わ れた。

「都市環境の再構築:

地域とともに考える街のリノベーション |





柏の葉キャンパス駅周辺と柏たなか地区の東急柏ビレジを対象に 「都市環境の再構築」のデザインと運営の提案を行った。地域の高 齢化や多世代の混住化の可能性を考え、長く快適に住みつつけるこ とができる街として改修するためのアイデアを提案した。フレキシ ブルな駅前システム、乗り物でつなぐ街、低密度で良好な環境の創 出や多様なライフスタイルを許容する仕組みが提案された。

2007「新しい公共空間を構想する」





柏の葉キャンパス駅から東京大学に至る通り沿いの6つの対象地に 「小さな公共空間」を企画した。「小さな公共空間」は50~500㎡程 度の多くの人が自由に使える広い意味でのパークスペースである。 提案どうしを連鎖させると同時に周辺整備等の構想とあわせて柏の 葉地域全体の将来像を描くとともに、実現に必要な管理運営主体・ 仕組みの提案など様々なアプローチから実践した。

2009「新しい田園都市をデザインする」





2008年度に引き続き柏の葉北部地域を対象地にした。 「農」、「モビリティ」、たなか地域の資源である「竹」といった

コンセプトによって地域の異なる魅力や課題を抽出した。農業の難 しさを理解しつつも水田や畑を駅前に積極的に配置するという大胆 な案、車と自転車の利点を十分に活用したアイデアなどバラエティ に富んだ提案が提示された。

「成長から成熟へのシナリオと 郊外都市デザイン」





長期的な時間軸を尺度として都市社会の可変的な将来像と連続的 な変化のプロセスを予測しながら進める都市デザインをサステナブ ルな都市デザインのアプローチとして定義し、新規開発が進む郊外 都市である柏の葉地区を対象に、都市の人口動態等を含めた長期的 な将来予測に基づくシナリオを描きながら、長期的なプロセスの各 段階における都市のデザインを提案した。

Chapter1 スタジオの趣旨とテーマ



■1. スタジオの主旨

都市環境デザインスタジオは、これまでつくばエクスプレス沿線『柏の葉地区』を対象に、地区スケールのデザインを含む 実践的演習を実施してきました。特に、『柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK)』と連携し、東京大学、東京理科大 学、千葉大学、筑波大学の沿線大学の共同開催により、市民、自治体、企業との討論や公開講評会を通じ、特色あるスタジ オとしての成果を上げてきました。

Intelligent Cluster Design for Regional Development based on "Kasiwanoha Campus Town Plan"

都市は居住者の属性やライフスタイルの変化に応じて、地域のニーズや課題は時代と共に変化していきます。本スタジオはフィールドに出て地域を解読することから始めます。居住者のニーズや生活パタンを把握し、都市の成り立ちや都市構造の解読を通じ、自然と共生した地域の可能性を追求していきます。グループ作業を通じ、人と人を結びつける仕掛けや社会学的なアプローチを学ぶことも期待しています。

また、都市を知ることとデザインすることは表裏一体です。本スタジオでは、都市環境デザインに求められる力として、都市を解読する方法を習得しつつ、現状の課題解決と共に予測し得る未来の都市活動をより魅力的にする地域社会の発展と都市環境のデザインの提案を行いますが、重要なのは将来予測に基づくサステナブルな都市のデザインです。

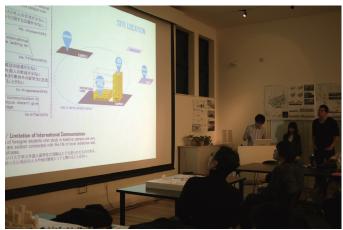
本スタジオでは、コンセプトの立案、必要な施設の企画、土地利用計画から3次元の都市空間や景観のデザインまでを含む「都市環境デザイン」の提案と共に、数十年先までの変容のシナリオを描き、長期にわたり活発な都市活動を支える仕組みに至る住み続けるための「エリアマネジメント」の提案を通じ、サステナブルな都市デザインに求められる考え方、技術、手法の習得を目指します。

■2. スタジオの進め方と目的

グループでの議論や作業、充実したスタッフの個別指導、地域の関係者のアドバイスも受けることになります。 ステップ・バイ・ステップで進みますので、これまで計画やデザインにあまり触れたことがない人も参加できます。 特に、以下のデザイン力を習得することを目的とします。

- 2-1 都市の未来を構想し、現実を変えていく戦略を練る力
- 2-2 空間を計画デザインする力,あるいは政策を立案し制度を設計する力
- 2-3 分かりやすく相手に伝える力,そして議論し説得する力





▋3. 課題「知的活動クラスターのデザイン」

3-1 対象地の背景と立地条件

柏の葉地区では、東京大学、千葉大学をはじめとする教育研究機関が立地し、2006年につくばエクスプレスが開通してからは鉄道駅を中心とした都市開発が進められてきました。2008年には「柏の葉キャンパスタウン構想」が策定され、同構想に掲げられた目標や方針に基づき、UDCKを中心に様々な都市開発やまちづくりの活動が進められてきています。

同構想が策定されてからこれまでの5年間は、住宅建設を中心とした居住環境の整備に力が注がれてきましたが、今後は、東京圏のベッドタウンとしてだけではなく、大学を中心とした教育研究活動や新産業の育成などの居住以外の機能を中心とした知的都市活動の拠点を形成し、自立的な地区へと発展させる、新たな都市開発の取り組みが重要課題とされています。

3-2 知的活動クラスターの機能と空間の構想

しかしながら、郊外の新規開発地区が、独自の経済活力を生み出し、魅力的で自立的な地区として発展していくためには、 住宅やその関連施設だけでなく、知的創造活動と人材育成を担う施設や空間が必要です。それは、大学、公共機関、各種学 校、企業が中心となり地区の特徴を活かしながら整備していく必要があります。

また、知的活動には、大学を中心とする教育研究活動や起業活動、民間企業の立地を中心とする研究活動、生産活動、および関連サービス活動、公共施設や各種学校を中心とする市民やアーティストによる文化・芸術活動など、様々なタイプが考えられます。

3-3 コンセプトからデザイン、マネジメントの仕組みの提案

そこで、本スタジオでは、対象地として、現在も新たな郊外都市の開発が進むつくばエクスプレス(TX)柏の葉キャンパス駅を中心とする『柏の葉地区』及びその周辺を対象に、長期的な将来予測と各自の描くシナリオに基づきながら、地域の創造的活動と人材育成を担う知的活動クラスターのコンセプト(テーマと機能を企画すること)、デザイン(施設、空間、インフラをつくること)、5年~30年度までの長期的なマネジメントの組織や仕組み(社会のニーズに応じて施設や空間を使いこなすこと)の提案を行います。即ち、知的活動クラスターの内容を構想し、地区に立地する施設の企画と発展のシナリオを描き、そのシナリオを基に、複合地区形成の仕組みを構想し、地域の段階的な発展過程の空間像を描く都市環境デザインの演習です。自治体、企業、住民と情報交換、意見交換しながらUDCKと共同でスタジオ運営にあたりますが、関係者や市民に開かれたオープンな検討の過程を通じ、斬新かつ実践的なデザインの考え方と方法の習得を目指します。



柏の葉周辺地区施設



柏の葉キャンパス駅前



パークシティ 1 番街



東京大学柏キャンパス



千葉大学柏の葉キャンパス



国道16号線



__ ららぽーと柏の葉



パークシティ2番街



東京大学柏川キャンパス



県立柏の葉公園



調整池



柏の葉アーバンデザインセンターUDCK



国立がん研究センタ



東京大学インターナショナル・ロッジ



こんぶくろ池公園



市立柏の葉小学校

【参考】柏北部中央地区一体型特定土地区画整理事業

ターチェンジ等に近接し、自動車交通の要衝となっています。

本事業では、柏の葉キャンパス駅を中心に、東葛飾北部地域における核として高次の都市機能の一翼を担う商業・業務等の土 地利用地区及び、それらの機能や自然と調和した住宅市街地を育成するため、公共施設の整備改善及び宅地の利用増進を図っ ています。

■4. 都市デザインの条件とサブテーマ

4-1 グループ作業で行う。それぞれのグループは、柏の葉地区を構成する以下の4つの対象地と計画条件の中から一つを選択し、地区の特性分析や将来動向分析に基づき、地区の計画条件を踏まえた知的クラスターのシナリオを構想し、グループ単位の作業を通じて、オリジナリティ溢れる斬新かつ実現可能な将来像の提案をまとめること。

【対象地:計画条件】

- a) 国道16号線沿道街区:民間企業誘致型クラスター
- b) 新設小・中学校周辺街区:住民主体コミュニティ施設誘導型クラスター
- c)東大柏Ⅱキャンパス敷地と柏Ⅰキャンパス周辺:大学関連施設誘致型クラスター
- d) 149街区(現UDCKの街区)と駅前周辺:駅前公共空間再整備型クラスター
- 4-2 対象地における2030年までのシナリオと、シナリオに基づく2015年、2020年、2030年のそれぞれの将来像をマスタープランとして提案すること。
- 4-3 計画対象地内から各グループで設定したシナリオや将来像に応じて、対象地の施設配置、空間デザイン、交通動線計画を提案する。
- 4-4 対象地が現在抱える問題の分析を通じた課題の分析や解決も提案に盛り込むこと。
- 4-5 都市デザインのサブテーマとして、地域の文化活動や経済活動を活性化するイベント等による公共空間の利活用を含めた「パブリックスペースデザイン」、低炭素社会の形成に向けた省エネルギーや自然エネルギー利用を含めた技術の積極的な導入と地域の自然条件を上手に取り込んだ環境共生を目指す「環境共生デザイン」を含めた空間デザインとシステム(仕組み、制度、マネジメントの方法)を考慮した提案に仕立て上げること。
- 4-6 各グループで設定のシナリオとサブテーマに対する方策に応じて、上記 a) ~ d)の対象地相互の機能的なつながりや活動の相乗効果等も含めた全体像も合わせて提案すること。

5. 成果物

5-1 敷地分析、事例整理、コンセプト発表 10月31日 (水) 15:00~@UDCK 発表成果物:対象地の分析、関連事例の整理、コンセプト案

5-2 中間講評会 11月20日 (火) 15:00~@UDCK

発表成果物:対象地のコンセプト、概念図、2020年の土地利用完了時の各立地施設の内容と配置計画、交通計画、サブテーマに対する提案

5-3 最終講評会 12月18日(火)15:00~@UDCK

発表成果物:対象地のコンセプト、概念図、2020年の各立地施設の内容と配置計画および交通計画、サブテーマに対する提案、2015~2030年の将来像、模型

5-4 最終報告会 1月26日 (土) 13:00~@UDCK 発表成果物:最終プレゼンテーション一式

6. 受講生

東京大学、千葉大学、東京理科大学、筑波大学の大学院生。行政や企業も参加する場合もあります。空間をベースに議論や提案、計画、設計を行いますが、人文社会学系の学生も習得が可能なプログラムです。狭義のデザイン、即ち都市や建築、外部空間の空間設計能力だけを問うものではありません。無論、基本的なデザインスキルを身に付けることやスキルアップを図ることは可能です。指導スタッフは幅広く充実しています。

Chapter2 プロセス

第1段階 ディベロッパーの立場からの土地利用の企画と誘致施設の決定

ガイダンス, 対象地視察 Oct.9 2012

東京大学・千葉大学・東京理科大学・筑波大学の学生の計約20人が参加し、課題や柏の葉キャンパスタウン構想について概要の説明が行われました。ガイダンスの後、日高先生と大島先生を中心に留学生のために対象地の視察を行いました。

個人発表, グループ分け Oct.16 2012

学生達は、興味を抱いた対象地について、敷地分析の結果を発表し、その結果に基づいて指導陣の先生方がグループ分けを行いました。計 6 グループ【敷地 a)・c)・d) にそれぞれ取り組むグループ $A \cdot C \cdot D$ 、a) 及び d) に複合的に取り組む A+D、b) に取り組む B-1 と B-2】に分かれました。

初回エスキス

Oct.23 2012

各グループは1週間の作業成果を持ち寄り、初回進捗発表に向けて担当の先生を中心にエスキスを受け、提案アイデアの整理を行いました。

初回進捗発表

Oct.31 2012

前回エスキスを受けて追加の調査やデザインワークを 行った上で、各グループのアイデアのお披露目となりま した。先生方のアドバイスによって各グループの今後の 方向性が明確になるとともに、プレゼン方法の改善すべ き点も指摘がなされました。







第2段階 プランナーの立場から施設配置計画の立案

第2回エスキス

Nov.07 2012

各グループのアイデアについて、前回発表の結果を受けて、改善を行うと同時に土地利用のプランなどより具体的に発展させていきました。

東葛テクノプラザ 東大柏ベンチャープラザ 見学会

Nov.13 2012

上記のインキュベート施設に御協力いただき見学会が実現しました。「知的活動クラスター」のヒントを得るために、施設・設備の種類や規模、入居対象者像と入居ニーズ、地域への貢献等について、学生から担当者の方々へ活発に問いかけがなされました。

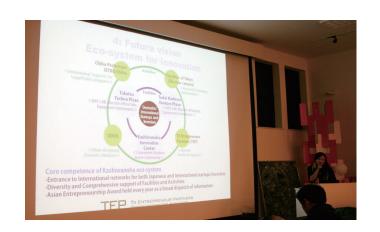




中間講評会 TEP後藤氏レクチャー Nov.20 2012

スタジオ前半の成果をまとめた中間講評会が行われました。スタジオ後半の展開が楽しみになるような、グループごとの個性がよく表れた発表内容となっていました。

さらに、発表の後、TEP(TX アントレプレナーパートナーズ)事務局の後藤良子氏から「新産業創造・ベンチャー育成の現実とソフト面でのアプローチ」についてレクチャーをいただき、学生達は熱心に耳を傾けていました。



第3段階 デザイナーの立場から施設・空間デザインとマネジメントの立場からの仕組みの立案

第2回進捗発表

Nov.27 2012

中間講評会を受けて、改善した点を中心に発表が行われました。建築デザインを含めたより詳細なプランや、完成後のマネジメント方法まで思考することにより、実現性を高める提案へと仕上げていきました。

第3回・第4回エスキス Dec.04 & 11 2012

第3回エスキスでは、スタディ模型を持ちこみ、建築の配置やボリュームまで踏み込んだ議論がなされました。 第4回エスキスでは、指導陣の先生たちがグループを巡回し、学内最終講評会に向けて作業進捗の確認とアドバイスをいただく良い機会となりました。

学内最終講評会

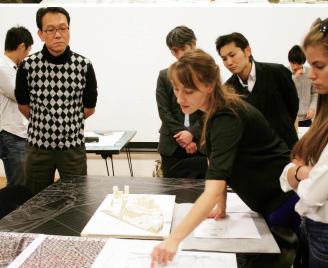
Dec.18 2012

学内の最終講評会では、POWERPOINT によるプレゼンテーション、AO パネル、スタディ模型を用いて中間発表後に発展させた内容を中心に発表が行われました。どのグループの提案も完成度の高いものになっており、一般公開最終講評会に向けて期待のこもった先生方からのコメントがなされました。









第4段階 プレゼンテーションの作成

全体指導 Jan. 8 2013

一般公開最終報告会に向けた全体指導の後、グループワークがなされました。

スタジオブックレット制作 Jan.15&22 2013

各グループの提案を本スタジオブック及び Journal of Asian Urbanisim にて掲載されるコンテンツとして、まとめていただきました。

学生達の提案は、ブックの出版と国際学術誌掲載によりより多くの人々へ発信されることとなります。

一般公開最終報告会 Jan.26 2013

市民の方、本スタジオの協力団体である柏市関係者の方 や特別講師の先生方に提案を見ていただき、意見交換を 行いました。

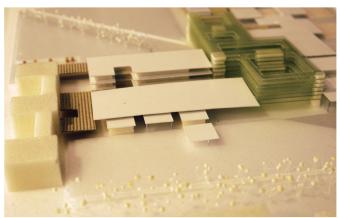
「知的活動クラスター」のデザインという柏の葉ならではでありながらも、アプローチの難しい課題に対して、完成度の高い提案が揃ったとの評価がなされました。 学生達も成果に達成感を感じるとともに、発表後も積極的に指導陣の先生方や来て下さった方々からフィードバックをいただいていました。













Chapter3 提案



ご近所イノベーション Innovation from Relationship with Neighbours

STUDENT

▍ 荒井 隆太郎 (東京理科大学大学院)



大学間をまたいで、共同作業をするのはとてもおもしろく、学問分野が違うメンバーと1つの作品を作っていくことで、都市工学的視点や考え方に触れることができ刺激的でした。考えるポイントがちがうので、多角的視点で課題に取り組むことができ、同時に建築意匠の専門性も意識することができました。

提出前はとても忙しかったですが、ワークショップのような気分で 充実していました。

すべてを通して、メンバーと協力して最後までたどり着けたと思っています。この経験をこれからいかしていきたいです。

■宮崎 智裕(東京大学大学院)



今回の演習は、問題解決型の計画ではなく、現状ほぼ更地として存在している敷地で、将来求められている機能を自分たちで考え、設計していくというものでした。当初の壮大な(笑)提案からブラッシュアップさせていく過程で、柏の葉や、社会全体の将来像について調査・考察を重ねました。

今回のスタジオに限らず、大学院入学以降、様々な立場から柏の葉という街、そしてこれからの社会の将来像と真剣に向き合う機会を頂き非常に刺激的な学生生活を送ることが出来ていると感じています。これからも柏の葉という街と関わりながら、成長できるよう精進していきたいと思います。

ご指導いただいた先生方、チームの皆様、ありがとうございました。

【遠藤 友里恵 (東京大学大学院)



今回の課題のテーマが実際のまちづくり業務でも日々考えられていることだと伺い、現実に即した課題を与えてもらえたのは大変勉強になりました。地権者の問題や住宅開発後、実際に住民が入居するまでの方法や期間など学部時代はあまり考える機会のなかった問を考えるキッカケとなりました。出来るならば、もっと住民ヒアリングや他事例へのヒアリング調査を積極的に行いたかったと思います。

今回考えたことは、現実の世界のほんの一部だと思いますが、少しずつ自分の世界を広げて行きたいなと思ったスタジオでした。先生方、講師のみなさま、チームの方々ありがとうございました。



課題 Issues

テーマ: まちに開かれた民間企業誘致型クラスターの計画

対象敷地は、柏の葉キャンパス駅の北側、国道 16 号線沿道にある面積 22ha の街区である。敷地内に 2 号調整池があり、TX の高架線路が南北 に貫通しており、敷地を特徴づけている。

現在の用途地域は住居地域であるが、単なる郊外住宅地ではない「キャンパスタウン」を実現するため、街全体で企業や研究機関の立地を促進する話が、民間企業を中心に柏市、東大 FC 機構も巻き込んでもり上がりつつあり、この敷地を複合開発用地として見直す議論が進んでいる。

多くの場合、企業の研究所などは外部に対して閉じる傾向がみられるが、研究などを、まちに開きながら、市民との交流の中で行っていく企業活動などの事例がすでにみられるほか、大企業が敷地全体を占有するのではなく、規模の異なる企業が隣接し、相互の交流を行いながら経営していく仕組みも考えられる。大学発のベンチャー企業などを誘致する場合も市民や学生との交流は重要である。柏の葉キャンパスタウンでは、既に街全体を使った社会実験が数多く行われており、開かれた企業オフィス、研究施設などをつくるための条件が整っているといえる。

住民や企業、教育研究機関といった様々な主体が関わり合い、知的資産を活かすことのできる知的活動クラスターのデザインを行う。

"Clusters to Invite Private Companies that is Open to the Community"

The Target site is a city block of 22ha area in the north of the Kashiwanoha-Campus Station, on Route 16 roadside. There is a pond on site, is elevated line passing through the North to South, and they characterized the site.

Currently, according to the city planning, the site is being planned as a residential area. In order to realize a "Campus Town" rather than mere suburban residential area, University of Tokyo, Kashiwa City, and private companies have a plan to facilitate the location of companies and research institutes to this site as a complex development site.

In many cases, there is a tendency to close to the outside world, such as industrial laboratories, but several companies are conducting research in interaction with the community. And Mechanism is also conceivable that different companies of various scales are adjacent, manage while performing mutual exchange, rather than Large companies occupy the entire site. Also when we attract university-launched venture companies, exchanges of students and citizens and companies is important.

In Kashiwanoha-Campus Town, conditions for placing corporate offices and research facilities that is open to the town are in place, because many social experiment with the whole town has already been done

We will design the Intelligent Cluster in which various players such as residents, companies, and educational- research institutions are involved with each other, taking advantage of the intellectual assets.



鳥瞰図 Bird view



1.1 敷地について Sites

・土地所有について

土地の所有者は柏市、県といった公的地権者と、民間企業・個人所有主 といった民間地権者に大きく分類できる。敷地のコアとなる部分に公的 地権者の所有地があり、縁辺部に民間地権者の所有地が多く分布する。

• 物理的制約点

隣接する国道 16 号線により周辺地域が分断されている。つくばエクスプレスの高架により、敷地自体も分断されている。池が敷地の中心にあり、特徴をつくっているものの、不定型な敷地形状になっている。

Siteowners

The owner of the land can be divided into public landowners (Kashiwa city, Chiba prefecture) and private landowners. Private landowners land distributed more in the margin.

Physical Limitations

The surrounding area has been divided by Route 16 adjacent to each other. Elevated Tsukuba Express line separates site. The pond located in the center of the site makes a site into typical shape.

1.2 社会状況について Society

・柏の葉の居住者

研究・教育機関関係者が勤務し、住宅開発のターゲットは子育て世代と 中高年に分かれている。ヒアリングの結果、どの主体も「柏の葉」とい う地域に住んでいるという意識をもち、「このまちで、何かができそうな 気がする」と感じていることがわかった。

・「団塊の世代」のリタイア、高齢起業家の増加

近年、50歳以上の起業家は増加している。起業家の年齢層別割合を見ると、50歳以上の起業家の割合は1979年の2割弱から2007年には4割強とほぼ倍増している。

「団塊の世代」がリタイアし、「元気な高齢者」が増加する現在、彼らが 生き生きと生活を送る事ができるかどうかという命題が生じている。

・企業集積の都市構造

研究施設の集積について事例分析をした結果、柏の葉という住宅地至近 な立地、当該敷地の規模に対しては、研究施設や企業と住民が相互に係 わることのできる都市構造が適切であると考えた。

Residents

From fieldworks, we found that many people who live in or working in this area, have the identity that lived in the area called "Kashiwanoha", and look forward to some creative activities

• Retirement of the "Baby Boomers", the Increase in Elderly Entrepreneurs

In recent years, the number of/the rate of entrepreneurs over the age of 50 is increasing. While the "baby boomers" retire and become "supersenior", there have occurred proposition of whether they can be life vividly.

• Urban structure of companies integration

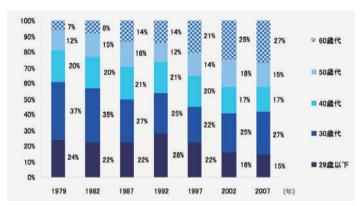
As a result of the case study about the integration of research facilities, we concluded that for Kashiwanoha area situated near residential areas, to the scale of the site, the urban structure that research facilities and businesses and residents are involved with each other is appropriate.



敷地周辺土地利用図 Landuse around the Target Site



Pond and Elevated TX Line in the Site



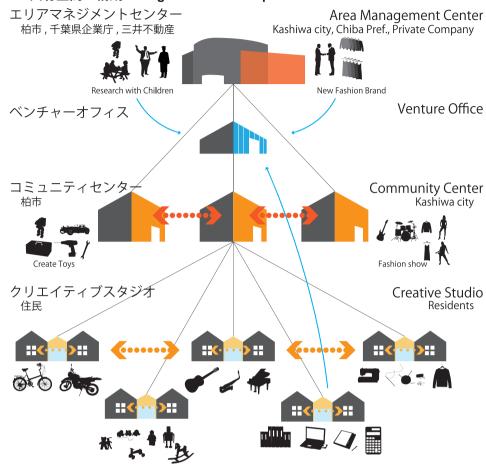
Age of Entrepreneurs



高齢者の起業を支援する団体『銀座セカンドライフ株式会社』 Organization that Supports Entrepreneurship in the Elderly http://ginzasecondlife.co.ju/business/incubation

コンセプト Concept

2.1 共有空間の構成 Diagram of Public Spaces



エリアマネジメントセンターは柏の葉に関わる全ての人に開かれている。柏市、千葉県企業庁、三井不動産の3者の共同出資により設立された開発公社が運営し、企業・大学・住民のビジネスマッチングをしている。また、起業支援も行う。Area Management Center is open to all people. It's operated by development authority, doing business matching between residents, companies, universities. They also support entrepreneurs.

コミュニティセンターは住民のための施設。それぞれの住民が行なっている活動の発表の場になったり、コラボレーションにより新たな活動が生まれたりする場所。

Community Center is facility for residents. They can present their activities, also find new activities that create by the collaboration with others.

クリエイティブスタジオは似た趣味をもったご 近所の住民同士が共同で活用する場所。ピアノ とギター、自転車とバイク、手芸と服飾など趣 味の幅が少しずつ広がる場となっている。

Creative studio are utilized by residents who have similar interests or hobby. Such like piano and guitar, bicycle and bike, handicraft and clothing, residents interest will be spreaded little by little.

都心から転居する人にとっては、子育てにも良い自然環境や、都心部と 比べた際の賃料の安さが魅力である。また、インテリ主婦が自宅以外に 自由に使える場所を確保できる。これは、自分の保有スキルを生かした 英会話教室やピアノ教室を開くことへのハードルを下げるだろう。

郊外から転居する人にとっては、一軒家に比べ手間少ないの必要十分な居住スペース、リタイヤ後第2の人生を送る場所として、学術的雰囲気や趣味・学問に没頭できる場所が用意されているところが魅力となる。

For people from the downtown area, this site is an attractive for low rent price and the good natural environment. In addition, having a free space will lower the hurdle to open classrooms or something.

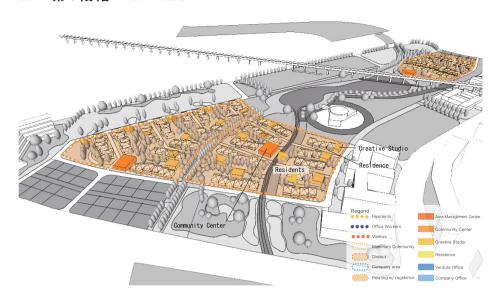
For people from the suburbs, living space is just enough size and they can have chance to be absorbed in their hobbies or studies when they spend second life after retirement.

大学・企業・市民がそれぞれに関係性を持つようになる。3者間での共同研究・開発が盛んに行われ、柏の葉発の商品やサービスが生まれていく。市民は自らが起業する場合もあれば、新商品開発に消費者目線で携わることもある。研究やビジネスマッチング、学生インターンの派遣や市民大学の運営、起業支援事業などがエリアマネジメントセンターで行われ、交流の活性化を図っている。

Citizens, companies and universities have a relationship to each other. Joint research and development is carried out actively, new products and services will be born from Kashiwanoha. In some cases residents will be entrepreneurs, and also they may be involved in new product development as a consumer. The area management center operate research and business matching, student interns, University for citizen, and business incubationin to revitalize exchanges.

3.1 開発の流れ Phase of Development

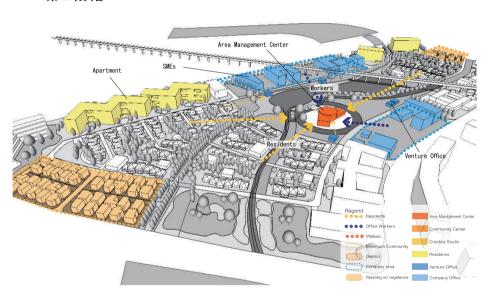
2014 第 1 段 階 1st Phase



まずは、緑地環境と住宅の整備から始める。地域内の住民はそれぞれのクリエイティブスタジオとコミュニティの中心であるコミュニティセンターを行き来しながら、ご近所さん達の新たな一面を見たり、自分の得意な趣味を披露したりして趣味や生活を謳歌している。

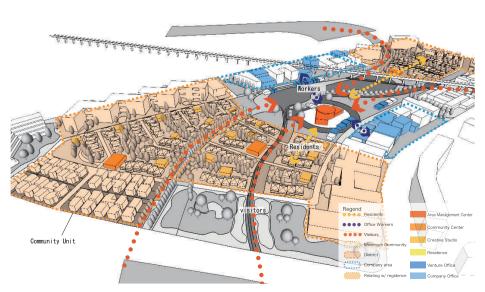
We'll start from the development of green space and residential environment. While visiting the community center which is located at the center of the community and each their own creative studio, they can know new aspects of neighbors and also they can boast hobbies, they are enjoying their hobby and daily life.

2020 第 2 段 階 2nd Phase



住民が段階的に増えていきその中でシニアベン チャーを立ち上げる者も出てくる。起業の芽の出 現に合わせ、柏市所有の土地にエリアマネジメン トセンターを設立。地域の特性に着目した中小企 業が立地しそれに伴い住宅も増えていく。中小企 業で働く人々と住民はエリアマネジメントセン ターに集まり、新規事業の創出に勤しんでいる。 Some residents launch senior ventures from their hobby or new business idea. According to the sprouting of business ideas, we build the area management center. SMEs which is interested in characteristics of this region, is now located. Housing also increases accordingly. Residents and business persons gather to area management center and discuss to create new businesses diligently.

2030 第 3 段 階 3rd Phase



地域への進出企業は更に増え、地域発のベンチャー企業も増加。地域内での活動が活発になるだけでなく、柏の葉エリアの人々が、一緒に活動するようになる。市民大学も始まり、市民・大学・企業が一体となった知的創造が積極的に行われている。

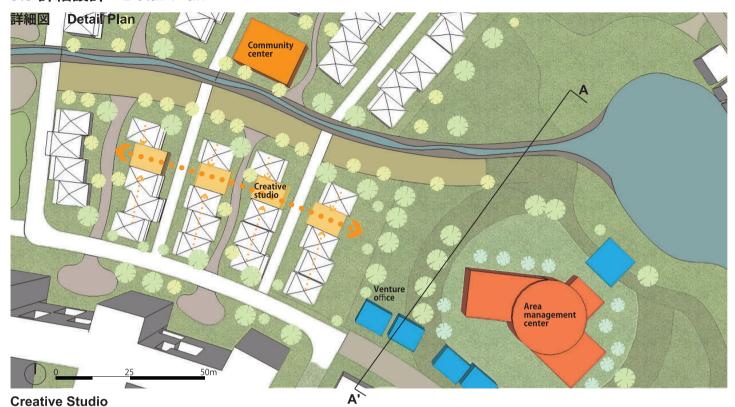
Companies operating in the region increase further, venture companies are also lunched more. Activity in the region become more brisker. Not only residents but also people who live in Kashiwanoha area are now working together. University for citizen is established, so businesses, universities and citizens have come together and make intellectual creations now.

提案 Proposal

3.2マスタープラン Master Plan

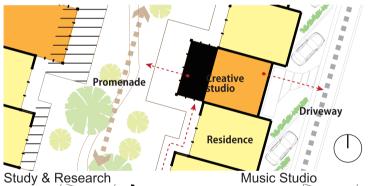


3.3 詳細設計 **Detail Plan**



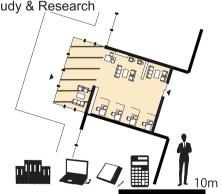
クリエイティブスタジオは、外からのアクセスが容易であり、住戸とも分離しているため、人を招きやすく、宣伝効果もある。それでいながら、住戸 と接続しているため、アクセスが容易な共有リビングともなる。

Creative studio is a space where guests can easily visit, because it is easy to access from the outside and separated from the dwelling unit, and it also has advertising effect. In addition, because of its connection to the dwelling unit, it can be also accessible shared living.



住宅の分譲時に、住民にヒアリングを行い、同じクリエイティブスタジ オを共有する世帯を決定させる。フリースペースの共有が決まった5世 帯は、協働でフリースペースの仕様決定を行う。フリースペースは、初 期状態として、間取りなどを自由に設定できる状態である。

In order to determine the household that share the same creative studio, residents have to answer the questionnaire about their life, at the time of sale of housing. Five households, who share a free space, can design free space together. The floor plan, detail design and function of free space can be set freely.



音楽を趣味とする人は、防音設備の整ったスタ ジオや、音楽教室や演奏会に利用できる広間を

作ることができる。

Workspace

People who want to taste the music, they can create a soundproof studios and halls that can be used for music classes and concerts.

アウトドアな趣味を持つ人は、広い土間空間を 作り、自転車や農機具などを置いたり、作業場 としても使うことができる。(P4 図 2)

People with outdoor hobby can make a large earthen floor space which can be used for putting bicycles or agricultural machinery, or used for a workshop. (P4 Picture2)

仕事や、研究を行いたい人は、電気・通信設備 の整った、オープンなオフィススペースや個人 の空間を作ることができる。

People who want to do work and research can make a well-equipped electrical and communication, the open space and private office space.

提案 Proposal

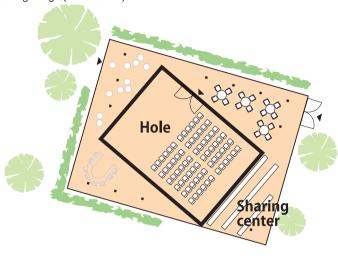
Community Center

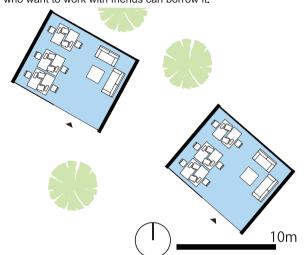
対象街区に3つあるコミュニティセンターでは、一つのコミュニティで 共有して所有するもの(キャンプ用品、日曜大工用品、古本など)が保管 されており、ものを共有することでもつながりが形成される。(P4 図 1) Community center keeps things shared with the community(such as camping tools, DIY tools, books, etc.). Connections are formed also by sharing things.(P4 Picture1)

Venture Office

池のそばに建つ、新規事業用のオフィスは安価で貸出が行われる。自身のクリエイティブスタジオでは手狭になった住民、仲間と一緒に作業を進めたい住民が借りることが出来る。

Office space, which is located near the pond, is lent in low price. Residents who feel their own creative studio isn't enough to do their work or who want to work with friends can borrow it.

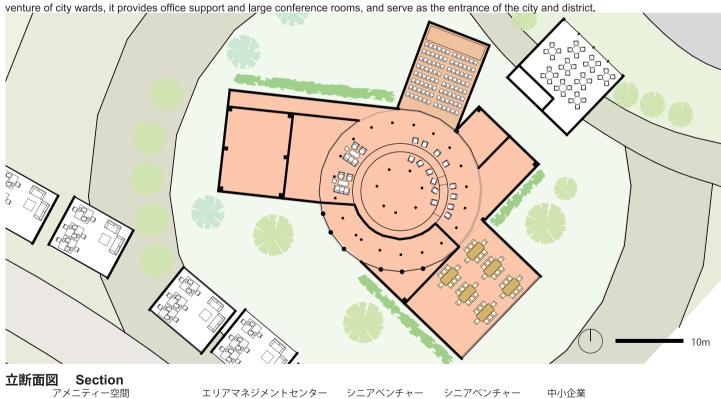


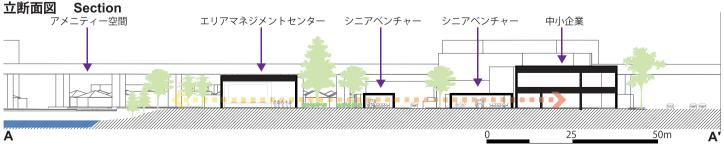


Area Management Center

エリアマネジメントを行い、開発を計画通りに導く。それだけでなく、各住居の管理を一括して行うことでコストを削減する。街区内に立地するベンチャー・中小企業支援では、大会議室の提供と支援窓口、そしてこの街区へのエントランスとして機能する。

Area Management Center leads town development. Not only that, in order to reduce the cost, it manages each residence collectively. To help SMEs and





B-1 GROUP ■住民主体コミュニティ施設誘導型クラスター

みちの学校

Street School

STUDENT

■飯島 康太郎 (東京大学大学院)



都市スケールでの設計は初めてで、最初は何を「設計」したらいいのか分からず、戸惑いました。細かな操作ではデザインしきれないような敷地の広さです。しかし、話し合いを進めていくうちに、少しずつ都市のデザインとはどういうものかということが分かってきた気がします。動線ではなく、動機をデザインすること。これは建築でも同じですが、ことに都市の設計ではこのことが中心になってきます。図面に人を描き入れるとき、なぜこの人はここにいるのか、何をしたくてここまで来たのか、考えました。そして、そこを起点にして別の経験に出会い、様々な人の様々な別の経験が密度をもって生まれることで、新しいものが偶発されるのではないか、というのが「知的活動のクラスタ」だと考えます。それらの活動を空間で表現していくことは非常に難しく、まだ十分でない点も多くあると思います。一方で、完全な空間による表現というのも存在しないのではないかとも感じました。これからもこの問いかけを続けていきたいと思います。

最後になりましたが、で指導いただいた先生方、田中さん、そして2人で戦ってきた井上君、本当にありがとうございました。

▍井上 雄仁 (東京大学大学院)



グループ分けで2人チームになったときは、2人だけでやっていけるのか不安しかありませんでしたが、今こうやって終わってみると、確かに一人当たりの作業量は多かったですが、その分2人だったからこそ話し合いの場も多く作ることが出来ましたし、何度も意見をぶつけ合うことが出来たと思います。

一方で、2人の性格的に思索の時間が長く、実際に形にするまでに時間がかかり、毎回プレゼンまで力を裂くことが出来なかったことは大きな反省点だと思います。せっかく自分たちで考えたことも、相手に伝わらなければ意味が無いということを、この演習を通じて痛感しました。「もっと聴いている相手の立場に立って、相手に伝わる説明ができるように」ということを今後の自分への課題としたいと思います。

演習を通じてご教授くださった先生方、担当として親身になって アドバイスをしてくださった田中さん、そして、最後まで自分を引っ 張っていってくれた相方の飯島くんに、感謝の気持ちを伝えたいと 思います。本当にありがとうございました。



1. 問題意識 Problems

柏の葉を広域的に見た時に、工場、大学、企業といった様々な主体による活動が存在する。また、UDCKや KFVを中心とした住民による様々なクラブ活動が行われている。対象敷地である新設小・中学校周辺街区は、今後住宅地として整備されていくエリアであり、これから生まれてくる住民活動に、工場、大学、企業の活動を組み合わせることができれば、両者の活動の幅が広がり、柏の葉に新たな知的活動を生み出すことできる。

In Kashiwanoha, there are many activities by factories, universities, companies, and residents. But, they have no relationship with each other. Our site will be developed as a residential area where many new residents will live. So this is a chance to make the relationship.

2. コンセプト Concept

建設予定だった中学校の代わりに、住民活動のための「学校」を作る。 その活動の中に、工場、企業、大学に勤めるなど様々なバックグラウンドを持った人々が関わることで、新たな発見を得て、その発見を地域、工場、企業、大学での活動に生かしていくことで、柏の葉全体の知的活動が活性化される。

To make the relationship, we suggest to make new school for community activities in place of the plan to construct new junior high school. In that school, people can communicate with other various people and it will stimulate them.

3. 提案 Idea

住民の主要動線である「緑園の道」沿いに地域住民の活動のための「みちの学校」を作る。地域住民の活動のみならず、日常的に小・中学校の授業も「みちの学校」で行うことで、小中学生と地域住民の間の垣根を取り払う。工場、大学、企業などのための空間も併設し、より住民活動に関わりやすい環境を整える。また、地域で特色のある場所には学校の「ちいさな拠点」を設け、まちなかで授業などを行う。

Our proposal is to make a new school 'Street School' along 'Green Axis' which is the main road for residents. In signature area away from the road, mini classrooms are constructed. This school is used by not only residents but also elementary and junior high school students. Next to the classroom, there are facilities for factories, universities, and companies. Then, they can participate in the community activities easily.

4. 将来像 Vision of the Future

生徒数の増減や住民活動の広がりに応じて、教室の拡張、用途転換を行うとともに、高齢者の増加に合わせて高齢者関連の施設を設けるなど、 長期的な学校空間の活用を目指す。

Depending on the number of students and the extent of community activities, the classrooms can be expanded or used for different purposes. As the number of elderly people grows, elderly facilities will be constructed. Therefore, 'Street School' can be available for years according to the changes in the social environment.

Bird view 道の学校 バードビュー 造園会社の作業場として 使われ、庭や空間のデザ インを学ぶこともできる。 水辺の拠点 池の風景を眺めながら食事を 楽しむ。水辺の生物を観察し たりや水辺の風景を題材にし た絵画教室なども開かれる。 緑の拠点 散歩の休憩場所となり、バーベ ものづくりの拠点 キューなども行うことができる。 工場同士の情報交換の場と 植物の観察、昆虫の観察、天体観 して利用される。日曜大工や 測といった観察教室も開かれる。 ものづくり体験、工場との共 同開発の場にもなる。 100m 27

地域分析 Research of Kashiwanoha

1. 柏の葉エリア全体 Kashiwanoha area

1-1 柏の葉における住民活動 Civic activities

柏の葉では地域住民による様々なプロジェクト・クラブ活動が行われている。しかし、それらの活動の場は主に UDCK と KFV であり、今後新規住民が流入してきた際には、スペースが不足し、活動に制約が生じてくることが予測される。

In Kashiwanoha, many people participate in various community activities at UDCK and KFV. But they do not have extra space for activities of new residents. It is necessary to prepare the spaces for them.

1-2 工場・企業・大学 Factory / Company / University

柏の葉には様々な工場や倉庫が多く存在し、柏の葉小・中学校周辺街区の南側には工場地帯が広がっている。また、東京大学、千葉大学といった大学キャンパスも存在し、2号調整池付近には今後企業誘致が計画されているなど、柏の葉には多様な主体が存在する。しかし、それらの主体の関わりあいはほとんど見られない。

There are many factories and warehouses on the south of our site. Also the University of Tokyo and Chiba University have campuses in Kashiwanoha. Around the regulating pond, attraction of enterprise is planned. However, these subjects have no relationship with each other.

2. 柏の葉小・中学校周辺街区 The site

2-1 小・中学校と緑園の道 Schools and 'Green-Axis'

2012年4月に開講された柏の葉小学校には、252名の生徒が通っており、この先中学校の建設も予定されている。

また、駅前から柏の葉小学校まで計画されている緑園の道は、通学路として使用されるとともに、本街区に住まう住民の主要動線となる。

Kashiwanoha elementary school opened April 2012 and it has 252 students. Kashiwanoha junior high school is planned to be constructed.

A new road 'Green Axis' connects Kashiwanoha station and Kashiwanoha elementary school. Then it will be the main street for students and new residents.

2-2 野馬土手などの自然資源 Natural resources

駅前の雰囲気とは異なり、本街区は未だ開発が進行していないため、野馬土手や昔ながらの集落の生垣など、豊かな自然資源が残っている。 Different from around the station, this site has not been developed and

natural resources such as tidy hedge and embankment are remained.

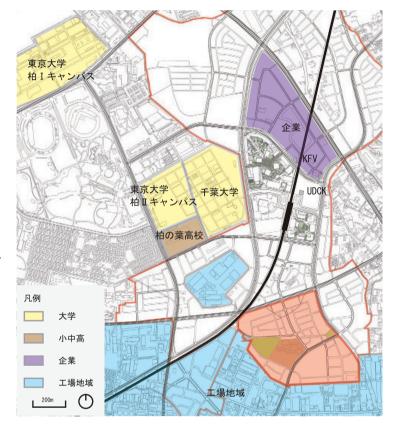
多様な人々が集う場所 Residential area with diversity

今後住宅地として開発されていく新設小・中学校周辺街区は、小・中学 校に通う子供を持つファミリー層、近くの大学に通う大学生、近くの工 場や企業に務める勤め人など、多様な人々が住まう場所となる。

これから生まれてくる住民活動に、工場、大学、企業の活動を組み合わせることができれば、両者の活動の幅が広がる。

This site will be developed as residential area where different types of people will live. Combining their community activities with activities of factories, universities and companies will expand the range of their activities.







コンセプト Concept

まちを学校に Town become a school

建設予定だった中学校の代わりに、住民活動のための「学校」を作る。教室は住民のみならず、小・中学生の授業の場にもなり、子供から高齢者まで幅広い世代の人々が、それぞれの目的で日常的に「学校」を利用する。

工場活動

「大学活動

企業活動

本語の学校

なります。

なりまする

なります。

なりまする

なり

地域住民のみならず、工場、企業、大学に勤めるなど様々なバックグラウンドを持った人々が、「学校」でのクラブ活動などを通じて互いに関わりあうことで、新たな発見を得る。その発見を地域、工場、企業、大学での活動に生かしていくことで、柏の葉全体の知的活動が活性化される。Our proposal is to make new school for community activities in place of the plan to construct new junior high school. The classrooms are used by not only residents but also students. People of all ages use the school. They can communicate with other various people from factories, companies, and universities. Interaction among various groups stimulate new intelligent activities in Kashiwanoha.

学校形態の選択 The form of the school

既存の学校は1つの敷地内に1つの校舎で、 住民にとっては「学校のための空間」として 認識され、住民活動では使用しにくい。

Existing schools are hard to be used for community activities because they are built in one site and people feel that only students can enter the school building.

逆に教室を分散させることを考えると住民に とって使うための心理的障壁は少ないが、「学 校のための空間」という意識が希薄になり、 通常の公共施設利用と変わらない。

If school buildings are distributed in the town, people can use the buildings easily. But they do not recognize them as one school.

そこで、新たに学校を「ストリート」沿いに 展開させることを提案する。この形態だと道 沿いに教室が集まっているため「学校のため の空間」という意識が形成されやすく、また、 日常的に通る道に展開されていれば、親しみ を持って利用しやすくなる。

We suggest a new type of school 'Street

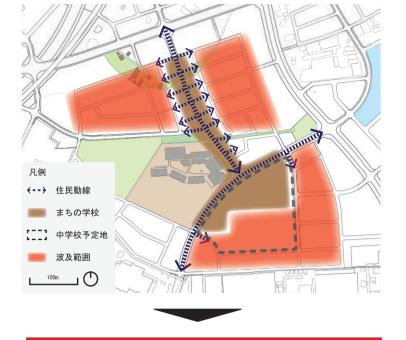
School'. School buildings line up along the road which people always walk. Then, they get familiar with the school.

緑園の道を学校に 'Street School' along 'Green Axis'

本街区においては、柏の葉キャンパス駅へと繋がる「緑園の道」が住民 の主な動線になると考えられるため、この道沿いに学校を展開させるこ とで、より多くの住民が学校空間に接することになる。

日常的に通過する場所で活動が行われていることで、より活動参加への 障壁は小さくなるうえ、地域で学校を見守るという形にもなる。

In this site, 'Green Axis' which connects to Kashiwanoha station is the main road for residents. Therefore, 'Green Axis' is suitable for the location of 'Street School'

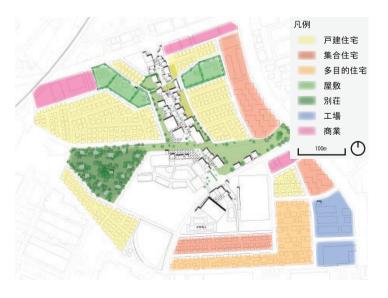


緑園の道からまち全体へと知が広がっていく 「みんなが知っている、みんなの知の学校」 ⇒「みちの学校」

ゾーニング Zoning

基本的には戸建・集合住宅地とし、周囲の環境に応じた住居エリアを設定する。東側と南側を工場地域に挟まれたエリアは、敷地をゆったりととることで、2世帯住宅を建てたり、庭を広くとったり、離れを設けたりなど、個々の住み方に合わせた居住空間を実現できる。また、屋敷エリアは、既存の旧住宅を参考に昔ながらの屋敷群を再現し、生垣の連続する落ち着いた空間を創出する。野馬土手沿いに計画されている近隣公園予定地は、緑に囲まれた別荘地として整備する。

This site is developed as a residential area basically. Near by an industrial area, there are big houses with expansive grounds. It is possible to build double houses or annexes there. The area where a few old residences are remained is reconstructed as a traditional village where people can savor the scenery of tidy hedge and the tranquil atmosphere. The planned site for park is converted to a cottage area.





詳細設計 Detail plan



2020 年:学校完成 The completion of school

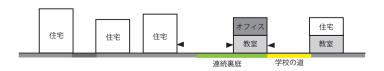
ワークスペースと2階の住宅・オフィス利用

教室の2階部分は住宅やオフィスとして利用される。また、教室と教室の間にはワークスペースを設ける。教室利用者と住宅・オフィス利用者が共同で使う空間とし、教室利用者にとってはホームベースとして、住宅・オフィス利用者にとってはミーティングスペースとしての機能を果たす。

全層 オフィス 教室 教室

教室の裏側の空間は、野馬土手まで繋がる連続する裏庭になっており、 道沿いから離れた落ち着いた空間になる。

Second floor of the classroom is used as a residence or an office. A workspace is sandwiched between two classrooms. Building users share the space. Students use it as a homebase and workers use it as a place for the meeting.





学校空間の拡大

裏庭空間に新たな教室を設置する。

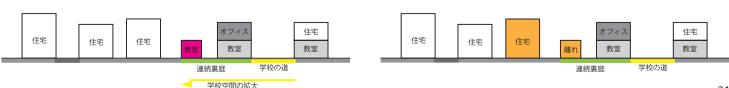
By 2025, the number of students will be 1.5 times and more さな教室を開いたりする。 classrooms will be needed. So, new classrooms will be built in the By 2040, the number of students will decrease and the classrooms in the backyard.

2025 年:児童増加 Increase in the number of children 2040 年:高齢者増加の兆し Increase in the number of elderly

教室が離れに

2025年に児童数が現在の1.5倍になるため、教室が不足する。そこで 2040年になると児童数は現在と同程度までに落ち着くため、裏庭の教室は住宅 の離れとして再活用する。個人の書斎として利用したり、お店を開いたり、小

backyard will be reused as studies, shops, or small classrooms.



Detail plan 土手に座って、練習やパフォーマンスを見る 図書館とつながるデッキで 職員室 幼稚園の子供達が親子で本を読む。 野間土手パークで遊ぶ児童の様子 幼稚園 を見守ることが出来る。 放送ステーション 校内放送の他、ラジオの 公開放送も行われる。 ラジオの収録を見る 小学校裏門 小学校内にある合同給食室への入り口。 メディアセンター 屋外ステージ パソコンを用いた数学の カフェののテラスや土手から 生涯学習の授業が開かれ パフォーマンスを眺める。 ベントカフェ カフェ内にステージがあり、地元活動の つながっていく活動 ちょっとしたイベントが開催される。 工場の廃材を 面白いかもし 使ったイベント スタジオ 一つ一つの大きさが異なり、目的に 作った作品を 便利な 応じて使い分けることが出来る。 遊具として公園におく 廃材の倉 アトリエ 昼休みに休憩に来た 新たな発見!

2040 年:高齢者増加の兆し Increase in the number of elderly <mark>交通計画</mark>

高齢者関連施設の整備

2040年以降、徐々に高齢者が増加するため、高齢者関連施設を整備する。数学教室やメディアセンターの向かいにグループホームを作り、そろばん教室やパソコン教室などの連携イベントを開催する。また、デイケアセンターや、リタイア後の高齢者が働き手となって小さなビジネスを展開するワーカーズ・コレクティブなどを設ける。

Since 2040, the older population will grow gradually and elderly facilities such as day-care center and facility for workers collective will be constructed. A group home will be built across from the math classroom and the media center. Abacus school and computer classes will be held.

交通計画 Traffic planning

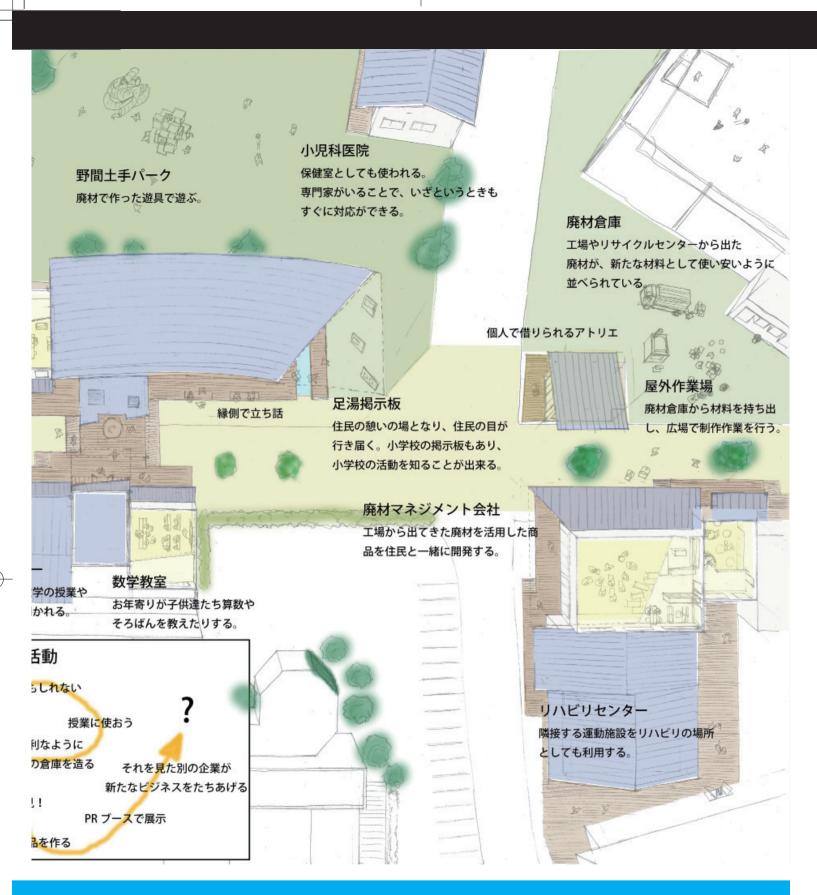
交通動線

学校空間となる「緑園の道」は歩行者のみ通行可能とし、教室内のみならず道も一体的に住民活動の場として利用できるようにする。高齢者関連施設が立地する豊四季駅前線に関しては車も通行可能とする。学校裏の住宅地に関しては、各戸に車動線を確保し、十余二花野井線、高田若柴線、豊四季駅前線などの幅員の広い道路へのアクセスを設ける。

工場の人が見る

新しい製品を

'Green Axis' is pedestrianized and will be used for community activities . Other roads are not pedestrianized. So, residents can access to their houses by car.

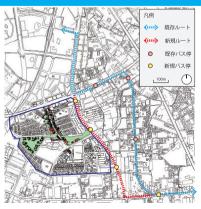




バスルート改変

今後住宅の整備が進むと共に、人口の重心が 西側へと移ってくる。そのため、既存のバス 1路線を新しく整備される高田若柴線沿いに 回すし、住民の利便性を向上させるとともに、 野馬士手パークに人々を呼び込む。

According to the increase of population, center of gravity of the population come near to the west. So, a bus route is changed to west.



B-2 GROUP

■住民主体コミュニティ施設誘導型クラスター

STUDENT

Giles SIOEN (東京大学大学院)



Starting from the introduction, lasting throughout the entire process, I experienced some new design techniques and theory. It started out with the knowledge cluster that functions as the master plan for Kashiwanoha, thinking on how this can be improved opened many opportunities. Within this group work and positive influence from the teachers we were able to take the design to the next level. Therefore I want to add that it was a very good experience to participate in the UDCK design studio as an urban design student from Belgium and learn more about the Japanese way of problem solving. However the barrier between Europe and Japan is big, by cooperating together we were able to find so many similarities. Modern problems such as aging society and global crisis binds us together to find innovate solutions by design. People all want a more comfortable urban life, for that, the responsibility of planners is high and we cannot forget any person that might be disadvantaged in any way. Therefore combining idea's and compromising with others during the process was crucial for us to find a creative system that can improve the quality of life for the people of Kashiwanoha.

▮ Marta AVINA (東京大学大学院)



The UDCK project of this semester gave me the opportunity to visualize and understand the urban design is Japan, which is very different from the one I had experience in Mexico and Germany. The different are quite substantial, and in my opinion this difference is based in the way people and society interacts in Japan.

For the team work, it was very challenging to combine not only the ideas, but our different backgrounds and specialties; this was a challenge but also a very important lesson to learn. During my university education I had the chance to collaborate with different people and nationalities, but mainly with the same academic background, by combining so many different factors this experience was very enriching.

The most difficult thing for this project was to understand the Japanese urban design without any Japanese in our team, though I really think we made a good job trying to understand, since I feel we all learn a lot about it. I want to thank my team members and the professors to supervise our work and for all the things we learn from each other.

Education Connecting

Xiaojun MA (東京大学大学院)



For me, it is a good experience to work with international students. UDCK offered us an opportunity to communicate with each other, and work together to propose a better future for the area. Our idea is to make full use of land, and everyone can participate and enjoy the different social activities. And based on the idea of knowledge cluster, the school is an important element which connect different type of residents and activities. In Japan, this is a serious problem of urban shrinkage. So we need to figure out a better living condition in order to keep the younger generation. School becomes the trigger of the area.

Ana Isabel FERREIRA (東京大学大学院)



Studying and working at UDCK Design Studio it was one of most rewarding experiences i had as a architecture student, in many ways. The interaction with foreigners, as well as Japanese and other nationalities provided one of the richest multicultural working experiences. Besides learning new working types of work methods, i was also able to have a better understanding of Japan society, culture and development strategy, and in a smaller scale, the surroundings of Kashiwanoha area development. Therefore, UDCK Design Studio taught me the best intercultural experience.

Katina GEORGIEVA(東京大学大学院)



The basic concept of exchange programs is to learn how to cooperate with people with different background and interests. My impressions are that it is very difficult to be productive in a big international group in a short period of time, though it also depends on the individual experience and ability to work in a team.

Most valuable for me was the opportunity to learn from the teachers in the UDCK and gain knowledge about the local Japanese policies in urban design.



1. 問題意識 Problems

現在、対象地のほとんどは工場や耕作地である。これらは周辺との関係を断絶させ、道路システムは不便になり、歩行者と自転車の利用者が歩くのに大変危険である。一方、この地域の人口密度は低い。しかし、「知的クラスター」の戦略をもとに、最近小学校が建設された。これからこの小学校は周辺地域により多くの居住者を引きつけるだろう。

Currently, most part of the site is occupied by industrial factories and farm lands. It is quite disconnected with the surroundings, and the road system is incomplete, so it is somehow dangerous for the pedestrians and bicycles to walk in this area. On the other hand, this area has a low density of population. But based on the "Knowledge Cluster" strategy, there is a newly built elementry school, which may attract more people to live around this area.

2. コンセプト Concept

我々のコンセプトは現在の小学校の横に高校を追加し、地域の核を形成し、学校の機能を拡充することである。この教育機能を考慮しながら、我々は多様なタイプの人たちが一緒に合流できるよう、夜間学校、週末マーケット、都市農場などのような社会的活動を提案する。こうして、学校は地域全体の人口増加と経済成長を刺激するきっかけとなる。

Our concept is to amplify the function of school by adding a high school next to the existing elementry school, forming the core of the area. Considering this "Education" function, we propose more social activities around school area, such as evening school, weekend market, urban farm etc, so that different types of people can be joint together. Therefore, school becomes a trigger for the whole area, which will stimulate the population and economy growth.

3. 提案 Idea

よりよい生活をめざすため、我々は柏の葉地域にグリーンネットワークを提案する。そして、中心地域を歩行者と自転車の利用者のための場所とし、TX線の柏の葉キャンパス駅と学校を繋げる緑のコリダー(道)を用いる。さらに、多様な住居の類型を用意し、独身家族、核家族、高齢者などの様々な家族の規模を満足できるように提案する。

Aiming to create a better living condition for the area, we develop a green network in Kashiwanoha. And we reserve the center area only for pedestrians and bicycles, using a green corridor to connect the Kashiwanoha Campus Station of Tsukuba Lineand the school. And various housing typology can satisfy different family size, such as single family, nuclear family and elderly.

4. 将来像 Vision of the Future

2030年にはこの地域の人口は144人から2707人に増加すると予想する。そして、高齢者向けデイケアセンターを設立することで、また高齢者はコミュニティーを活性化する社会的活動を提供しがら、より良い身の回りの世話を受けられる。一方、グリーンネットワークはより自然とのつながりを提供し、さらには持続的な発展の目標を達成する。

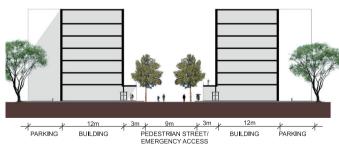
In 2030, we expect the population of this area can grow from 144 to 2707. And also the elderly people can be taken good care of by establishing elderly daycare center, offering social activities to communicate. On the other hand, the green network can provide more contact with nature, and finally achieve the goal of sustainable development.

マスタープラン Master Plan

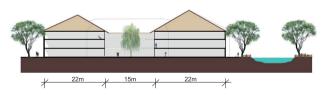


TYPOLOGIES 類型

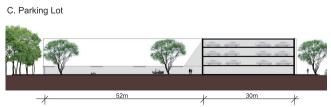


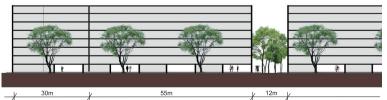


B. Elderly Daycare Center



D. Condominiums





Research of Kashiwanoha

STRENGTH

Elementary school

Farming activities





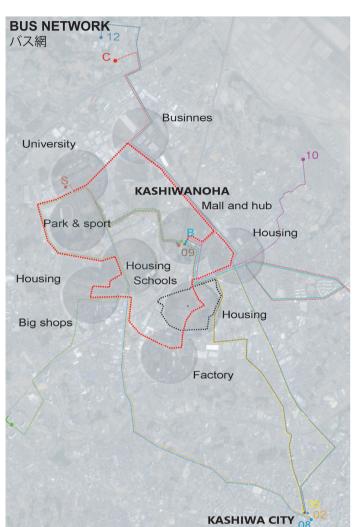
Public facilities Recycling building

WEAKNESS











- 断絶された地域公共交通の機能を繋ぐ。
- 一それぞれ異なり、独立した機能を強化する。
- 公共交通の利用を刺激し、ネットワークを創出する。
- Connecting functions that are disconnected from local public transportation
- Strengthen the different independent functions
- Create a network that stimulates use of public transport

知的クラスターはグリーンネットワークによってスローな交通(歩 行者と自転車)と繋がることができ、そしてネットワークを通って、 緑が拡張しながら生物多様性を創出する。しかし、現在は 地域によっては緑が十分ではない。この理由のため、プロジェク トゾーンは緑のパッチを拡張するために使用されている。

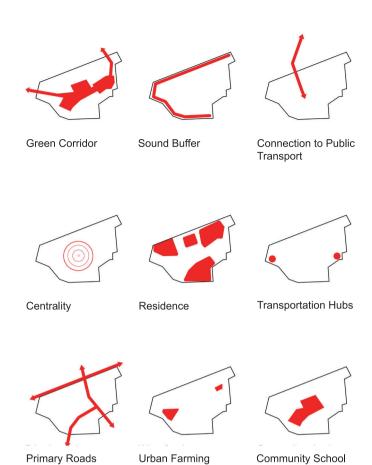
Intelligent cluster can be connected via a green network that stimulates slow traffic (pedestrian and bicycle) and creates more biodiversity by enlarging the green through connection. However some areas dont have enough greenspace. For this reason the project zone is used to amplify green patch.

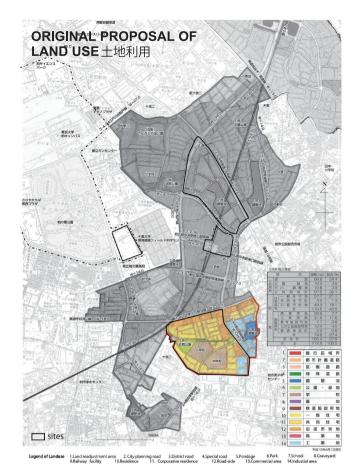
CONNECTING DIFFERENT FUNCTIONS 異なった機能の連結



Lalaport and hub Residential Elementary school Housing Factory Comm. Park Lodge Todai

コンセプト Concept



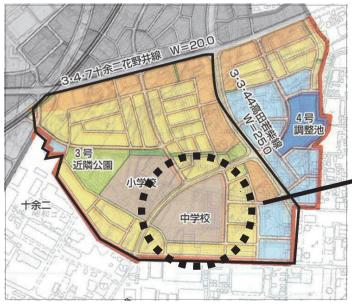


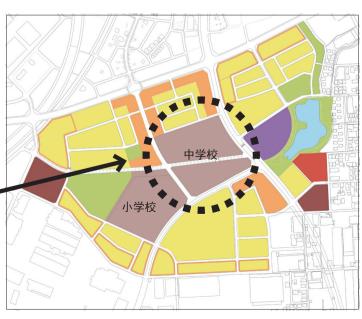
本来の提案では、高校は以下の地図に表してある三角形の地域に位置するが、我々は以下の目的のため中心部に移転させたい。

- 一学生の安全と環境汚染を抑えるため車のない環境を提供するため。
- 一小学校と高校を結合し、このサイトのコアとするため。
- 一居住者と公共に学校を開き、多様な学校活動を、地域社会とインテグレートするため
- ―主たるインフラを連結し、経済と社会的発展を刺激するため

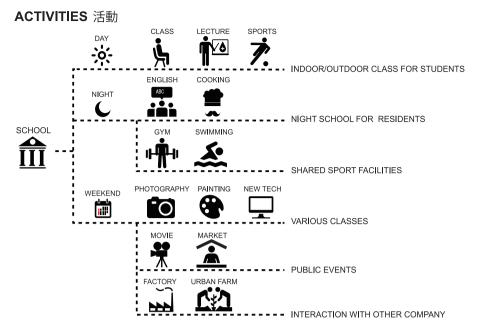
The original proposal for the high school is in the triangle area shown on the map below, but we prefer to relocate into the center in order to:

- Provide a vehicle-free environment for students' safety and less pollution
- Combine the elementary school and high school in order to centralize it being the core of this site
- Create multiple school activities, open to the residents and public developing social integration
- Connect to the main infrastructures, stimulate the economy and social development





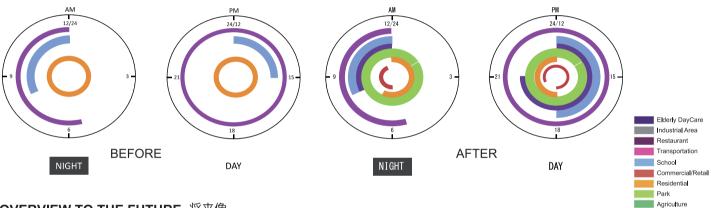
コンテンツ Contents



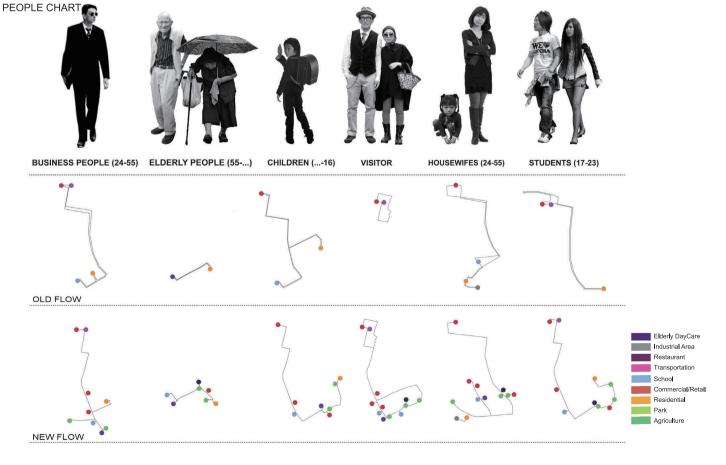
知的クラスターをつくるために、より多くの活動を生み出しながら、学校をフル活用する。異なったタイプの人達が一緒に合流することができる。昼には、学校は学生が勉強できる場所になり、夜と週末には居住者が学校の施設を利用することができる。

Being part of the knowledge cluster, we propose to make full use of school by creating more activities. Different types of people can be joint together. In the day time, school is the place where students study; and in the night time and the weekend, residents can use the facilities in school.

DAY-LIFE CLOCK日常生活クロック



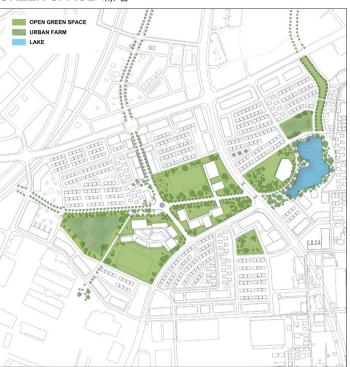
OVERVIEW TO THE FUTURE 将来像



コンテンツ Contents

TRANSPORTATION 交通 TSUKUBA LINE PEDESTRIAN PATH

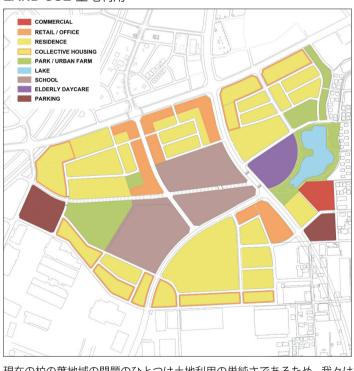
GREEN SPACE 緑地



交通と道路システムを調整し、開発することを提案し、歩行者と自転車のための中心地域づくりを提案する。こうすることで学校と居住 者にとってより楽しい環境を提供することができる。そして、地域により多くの緑地空間を提示し、この地域は全柏の葉地域ののグリーンネット ワークの1つになる。

We propose to organize and develop the transport and road system, and also make the central area for pedestrians and bicycles. This can provide a more pleasant environment for the school and residences. And we suggest to have more green space in this area, which becomes one part of the green network for whole Kashiwanoha.

LAND USE 土地利用



LIGHTING SYSTEM 夜間照明



現在の柏の葉地域の問題のひとつは土地利用の単純さであるため、我々はこの地域に多様な活用、たとえば、高齢化問題 に基づいた高齢者デイケアや、地域経済を刺激する商業施設と小売店をもっと配置するといった土地利用を提案する。このサイトで 学校は主な役割を果たす。そして、学校の利用時間を延長し、夜はこの地域をライトアップする。

One of the current problems of Kashiwanoha is monotony of land use, so we propose various kinds of land use in this area, such as elderly daycare center based on the aging problems; more commercial and retail stores to stimulate the local economy. The school plays a main role in this site. So we prefer to extend the utilization time of school, and it can "light up" the area at night.





詳細計画 Detail Plan

DETAIL DESIGN OF SCHOOL 学校の詳細設計





lucuBETA-Farming Knowledge

STUDENT

▲ 久野恭平(東京大学大学院)



もともと知り合い同士のチーム編成でしたが、真剣に議論を交わすのは初めてでした。課題が抽象的で難しく、最後まで知的活動クラスターが何かは自分たちの中ではっきりとしませんでしたが、一人一人の得意な部分がうまく生かされた提案になったと思います。最終講評で、自分たちが提案したインキュベーション施設が千葉大学の敷地にすでにあることを知り、リサーチ不足を痛感しました。千葉大に足りない機能を考えて提案すればより良い案になっていたと思います。そういった予想外の質問にもすらすらと答えられるようになりたいというのが僕自身の課題です。僕の専門は都市計画で、残りの二人は意匠設計が専門でしたが、専門や国を越えた今回のようなチームワークこそ知的活動クラスターの1つと言えるのではないでしょうか。

Sean LACY (東京大学大学院)



This semester presented a studio for me to learn as an architect, how to design from a larger scale utilising concepts presented in knowledge clusters and how it manifests down to the very details of our site. A site that is totally tangible as to the possibilities for the direction that it could go in the future. As a foreign student to Tokyo University, this studio was a great experience as it gave me the opportunity of working and forming connections with other students from both Japan and abroad.

The studio was constantly challenging and pushing for us to produce our best and most applicable work as to help contribute relevant ideas to the brainstorming process as Kashiwanoha grows in front of our eyes.

For this, I give a big thank you Prof. Deguchi and to everyone who helped pull this studio together.

徐 萱(東京大学大学院)



It is a very special experience for me as a student majoy in Architect to do such big scale masterplanning. Study of the main theme of studio - knowledge cluster, showing me a another way to operat the city and provide a chance to reconsider the connection between space and users.

As the unique international team with Japanese student, get over the language fense, we keep discussing every week, push ourselves to better planning. All of our group member are hard working and talented. Though we are not succeed in give an certain anser to knowledge cluster in the end, I think our diagrams and drawing well express our idea for the site. Finally, deeply appreciate for all who helped us a lot.



1. 問題意識 Problems

敷地(東大柏キャンパスII)には現在、留学生のためのインターナショナルロッジが存在するのみである。ロッジに住む留学生にインタビューを行ったところ、地元の人や日本人学生との繋がりを求める声が聞かれた。また、敷地周辺には居住系の機能が少なく、人々の活力に欠けると感じた。そこで、日本人学生のための学生寮(と簡易宿泊機能)を導入することで、アクティビティの増加と、日本人と留学生の国際交流が同時に達成出来るのではないかと考えた。

また、単に学生寮を導入するだけではなく、そこに住まう学生の活力 を利用して、市民も巻き込みながら新しいキャンパスの形を考えたいと 思った。

Currently there are no dorm facilities for Japanese students in our site. Only International Students are housed in the Kashiwa International Lodge. We interviewed the students who studied in Kashiwa campus of Univ. of Tokyo, and discovered that both international students and Japanese students hope for more communication with each other. What's more, there are few housing around site C so there is a lack of activities in the area.

Based on our site research, we plan to introduce the Japanese lodge and short stay, aiming to stimulate more activities and communication.

Also, to take good advantage of the creative energy of students, we try to suggest a new type of campus that involve both students and locals.

2. コンセプト Concept

学生の活力を利用出来る機能として、インキュベーション施設を考えた。 入居する企業は学生を含めた大学の人的ネットワークを活用出来るし、学生側も普段関わらない企業の人や技術者と関わりを持つことで、研究分野への関心が向上すると考えられる。

また、敷地には隣接して千葉大学という「農」に強みを持つ学術機関が存在する。さらに、柏にはその他にも「農」に関する資源が豊富である。そこで、農業研究に特化したインキュベーション施設を導入することで、柏、ひいては千葉県の産業の活性化に寄与することができるのではないかと考えた。

地域のシンボルとして市民に愛され、様々なアイディアを地域に発信していける新しい東大柏キャンパス II を目指す。

We consider setting up a incubator for this area that can benefit from the network resource of students and university. On the other hand, students can start the career they can't do easily without specific technique support, and help doing further research.

As we know, Kashiwa campus of UT has so many programs of environments study, and University of Chiba has strong power for agriculture study. Besides, as Kashiwa-no-ha high shool and oak village, Kashiwa has rich talents and resource of agriculture. So we intend to clearify this certain topic of acubator, gathering and distribute associate infromation, can act as active part of industrial area of the whole area.

3. 提案 Idea

今回の提案では、

- 1:学生寮と簡易宿泊機能
- 2:インキュベーション機能

という2つの機能の複合を考えた。インターナショナルロッジ側には学生寮を、千葉大側にはインキュベーターを配置し、その間にコアスペースを創出する。敷地を斜めに横切るようにメインストリートを通し、キャンパスIへの流れを確保するとともに、コアスペースがアイストップとなるような配置計画を考えた。

コアスペースは学生寮側とインキュベーター側をつなぐだけではなく、 市民、学生、研究者など様々な主体の動線が交錯し、「農」を体現した地 域のシンボルとなる。

About the proposal:

- 1: Introduce lodging and short stay
- 2: Introduce incubator and the mixture of these two functions.

The proposal is in aim of enhancing legibility and access to Campus I from Kashiwanoha Campus Station from the creation of a main axis/path through the site which conducts the flow of students and locals via a unique core space symbol of mix functions, and in turn this form and symbol corresponds to the surrounding context.

敷地分析 Site Research



敷地現況

対象敷地である東大柏キャンパスIIは、駅から柏キャンパスIへと向かう途中、ちょうど中間地点に存在する。 敷地には現在留学生のためのインターナショナルロッジ が存在するのみであり、千葉大学、柏の葉高校、柏の葉公 園と、それぞれに特徴的な施設に隣接している。

もともと千葉大の農場であった土地の一部を東大が取得し、運動場としていた。東大の柏川の敷地をベースに、千葉大敷地も含めた、このキャンパスタウンの中心ブロックをどうしていくかが大きな課題である。

Site C is in the middle point from station to Campus I, only International lodge and one sports center in it. Univ. of Chiba, Kashiwa-no-ha high school and Kashiwa-no-park locates around.

As the center block of Kashiwa campus town, what role will it act and what impression will it bring should be a issue of our study.

問題点 Problems

-Legibility

キャンパスエリアのわかりにくさ

-Scale

茫漠としたスケール感

-Housing

留学生しか住めない学生寮地

-Features

ランドマークの欠如

-Dark Spot (Population)

人の住まないキャンパス周辺エリア

-Dark Spot (Night)

夜のアクティビティの少なさ

ポテンシャル Potentials

-Linkage

駅とキャンパスーとをつなぐ

Site can act as a linkage device for both the campus and the station.

対象敷地は、駅からキャンパス I へ向かう途中に存在する。 そのため、人の流れを呼び込むことが可能である。

-Facilities

キャンパス || 特有の文脈

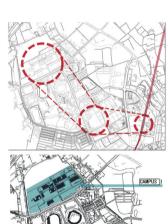
A chance to provide new and differing campus facilities to overall masterplan. Either a flexible space or contrasting program to compliment.

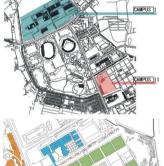
柏キャンパス I と II は、その回りの土地利用の差から、置かれている文脈が異なる。リサーチエリア的な雰囲気をもつキャンパスエリアとは異なった新しい、特徴あるキャンパスにできる可能性がある。

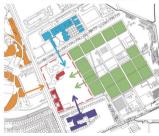
-Connection

隣接する施設との繋がり

Provide connection with surrounding program (immediate). 千葉大学は農業や食料、柏の葉高校は教育、柏の葉公園はスポーツレジャーなど、それぞれに特徴的な機能、強みをもっており、周囲をの異なったプログラムとの繋がりを生み出すポテンシャルを有している。







インタビュー Interview

What do you think about the international communication in Kashiwa campus now

I think that international activities are lacking as a whole.

Ms. T/Filipino/GPSS

日本人と外人の交流が少ない、 イベントに関する広報が少ない。

Ms. J/Korean/GSFS

I think that Kashiwa Campus is not so huge compare to Hongo Campus, I mean it is a reasonable size to hold international gethering parties for students. But what is pity that, seldom Japanese students join such activites, and even don't know such information.

Mr.K/Japanese/GSFS

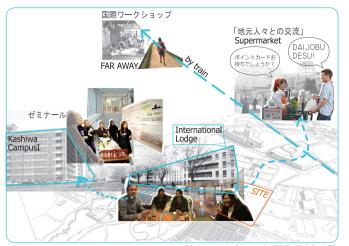
- ・英語の授業が少ない
- ・外国人の教員が少ない
- ・あまり専攻外の留学生と 交流することがない

Mr. H/Japanese/GPSS

This kind of communication in kashiwa campus doesn't give me strong image.

Ms.S/Thai/GSFS

導入施設 Introducing Programs







日本学生寮を加えた将来像

宿泊機能の導入 Lodging

居住系の機能の不足、留学生の日本人との交流を求める声から、日本人のための学生 寮の導入により、キャンパス周辺の夜間人口の回復とキャンパスの国際化が同時に達成 できると考えた。

留学生にとってただ寝るだけの空間であったインターナショナルロッジが、地元との 関わりを生み、留学生の活動は変化する。また、日本人学生にとっても英語でコミュニケー ションする機会が増えるなど、双方にメリットがある。

さらに、大学には2年間の修士課程で学ぶ者から、2月間だけサマースクールで学ぶ 者まで、多様な人間が存在することを考えると、ショートステイ(簡易宿泊機能)の導 入は、学び方に応じた学生(や先生など)の活動を支えるものとなり、結果としてアクティ ビティが多様になると考えた。

To provide a program that enhances spatial use of Site C, based on the requirements summarised from the students interview, we introduce a Japanese Lodging program, along with a short stay system. Once introduced, the Japanese Lodging provides more communication between International students and Japanese students, and also the local people.

東京大学の学生 修士課程2年 24months for master cours 研究生1年 12months for 交換留学8ヶ月 8mon 現地リサーチ3ヶ月 3months for field study 海外留学10ヶ月 10months for study abroad

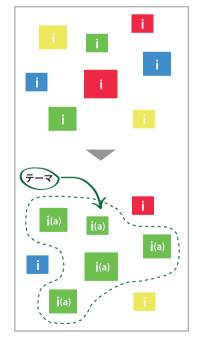
ほかの大学の学生と教職員 ワークショップのためーヶ月泊まる 1month for workshop 会議のため一週間泊まる 1week for conferrence スタジオのため一晩泊まる 1night for studio

MIXTURE WITH SHORTSTAY

インキュベーション機能の導入による相乗効果 Incubator

また、単に学生寮を導入するだけではなく、そこに住まう学生 の活力を利用して、市民も巻き込みながら新しいキャンパスの形 を考えたいと思った。





学生の活力を利用出来る機能として、インキュベーション施設を考え た。入居する企業は学生を含めた大学の人的ネットワークを活用出来る し、学生側も普段関わらない企業の人や技術者と関わりを持つことで、 研究分野への関心が向上すると考えられる。

また、従来型のインキュベーターとは違い、地域産業ビジョンに基づ いてテーマを与えることで、千葉の活性化に貢献出来ると考えた。

The incubator we suggested is that based on the industrial vision, the companies work on certain field will consist much part of the whole.



コンセプト Design Concept

農業インキュベーターの導入

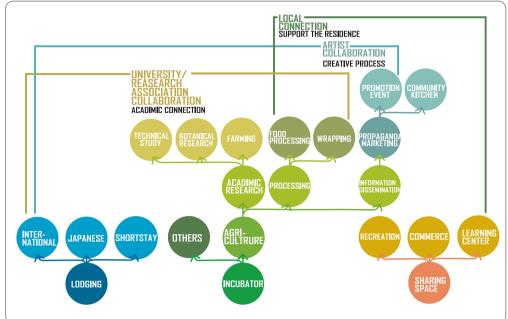
敷地には隣接して千葉大学という 「農」に強みを持つ学術機関が存在 する。さらに、柏にはその他にも「農」 に関する資源が豊富である。そこで、 農業研究に特化したインキュベー ション施設を導入する。

農業インキュベーターの農業研究部門は、研究・流通・情報発信の3つに大きく分けられる。研究分野は植物・耕作に関わる研究やその他の技術的な研究を行う。流通分野は食品の加工や包装を行い、情報発信分野はイベントの開催やコミュニティキッチンの運営等を行う。

As the talents and resources are so rich around the Campus I, like Univ. of Chiba, Oak Village, we introduce certain agriculture research programs and facilities into the incubator.

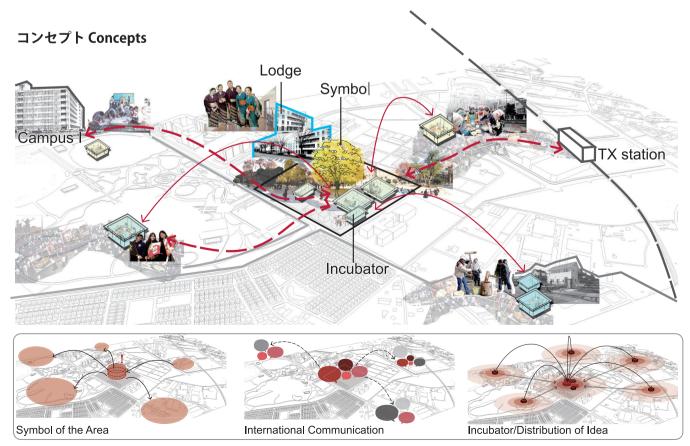
植物の生育条件に応じた環境が整えられ、様々な研究が行える。また、外部空間に特化した空間構成で、仮設的な施設も設けることができる。

Agriculture incubator will prepare for condition changes more often than common incubator. Also, the agriculture space not only contains indoor room, but also outdoor spaces, like green house, planting land, temporary construction and so on.

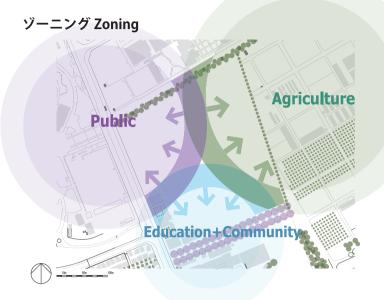


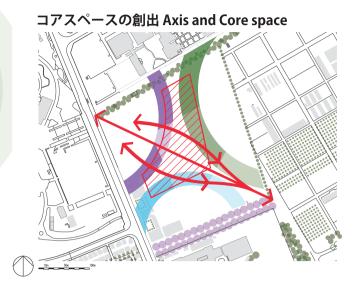


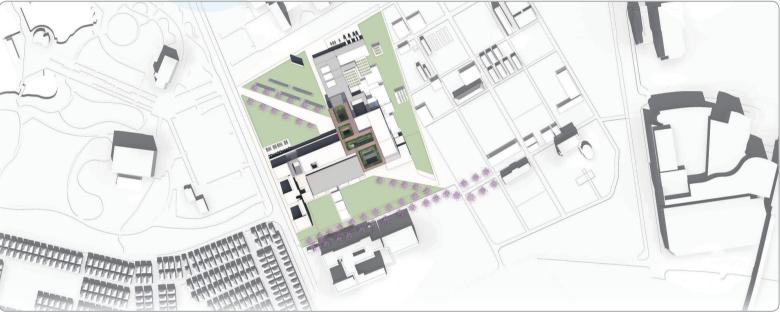




配置計画 Masterplan Design







配置計画 Planning

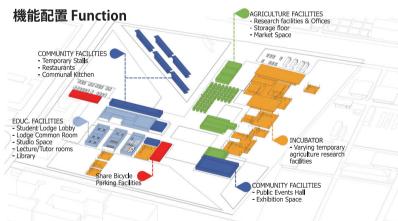
周辺との関係から、どのような機能をどこに配置すべきかのゾーニングを行い、Public ゾーン、Agriculture ゾーン、Education+Community ゾーンの3つを設けた。

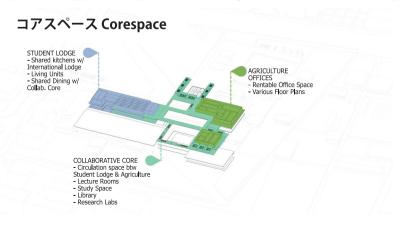
インターナショナルロッジ側には学生寮を、千葉大側にはインキュベーターを配置し、その間にコアスペースを創出する。敷地を斜めに横切るようにメインストリートを通し、キャンパス | への流れを確保するとともに、コアスペースがアイストップとなるような配置計画を考えた。コアスペースは学生寮側とインキュベーター側をつなぐだけではなく、市民、学生、研究者など様々な主体の動線が交錯し、「農」を体現した地域のシンボルとなる。

基本的に敷地内は歩行者・自転車優先であり、自動車は敷地周囲の駐車場で処理される。インキュベーター間の移動はパーソナルモビリティで行われる。

Setting zones according to surroundings: Public Zone, Agriculture Zone, Education + Community Zone. Create the short cut across the site to make easier the access to Campus I. Buildings zone responds to the different facilities surrounding and leaves enough space for further expansion.

インキュベーターと寮には増築する余地が残され、寮側にはラーニングセンター、レクチャールームなどの学習機能が、インキュベーター側には企業の需要に合わせてオフィスが増築されていく。インキュベーターで生まれたアイディアはプラザに設けられた展示空間で市民や学生に向けて情報発信される。



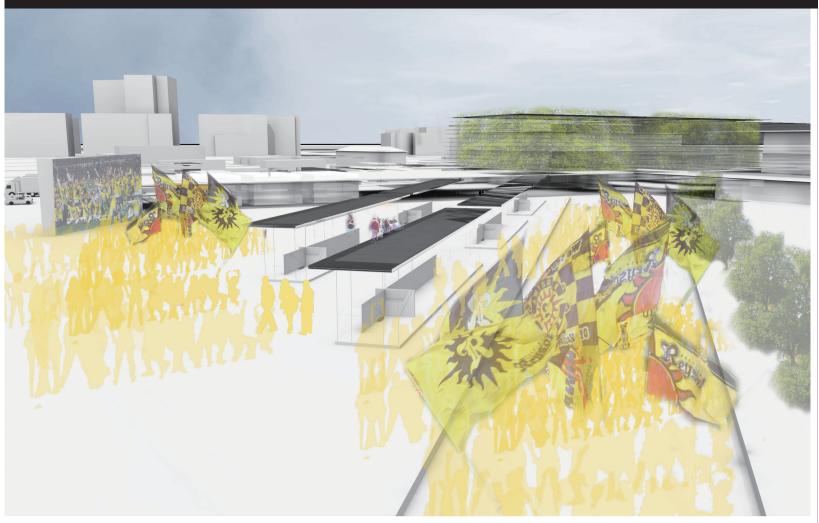


空間デザイン Design



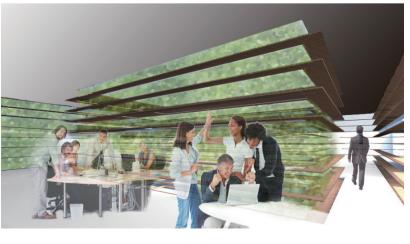


様々な活動 Activities











段階的な発展 Phasing

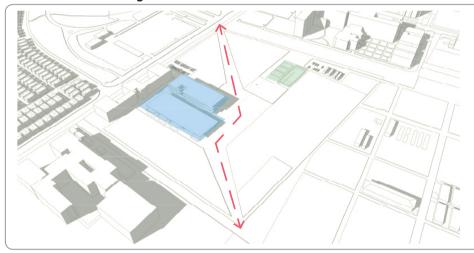
イベント Events

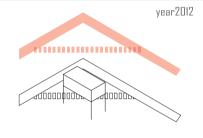


柏の葉祭りの拡張

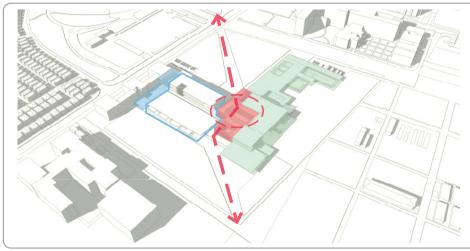
春のお花見の様子

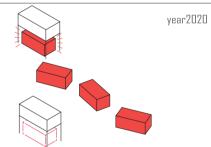
段階的な発展 Phasing



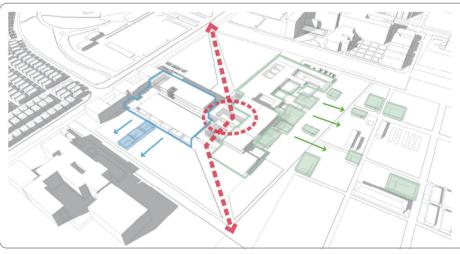


- ■メインストリートの創出
- →・キャンパス | への流れの創出
- ■日本人の学生寮・簡易宿泊機能の導入
- →・居住人口の増加及びそれに伴うアクティ ビティの発生



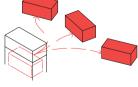


- ■コアスペースの創出
- →・ランドマークとしての「農」の体現
- ・様々な主体の動線が交錯する場の創出
- ■インキュベーション機能の導入 農業研究に特化したインキュベーターの 導入





year2030



- ■インキュベーターとしての増築・発展
- →・農業インキュベーターの増加による柏、 千葉の産業の活性化
 - ・学習機能をサポートする施設の増加による国際交流の実現。市民参加の増加。

GROUP

Talent Fit - 柏の葉にFitする-

STUDENT

▼ 「萩原 豪(東京理科大学大学院)



このスタジオで私は、都市の未来について考える事の難しさを感じました。都市は様々な要素が集まって成立しています。都市計画の提案において、システムを考える事も、建築を考える事も、周辺環境を読み解く事も、どれか一つでは自らが描く柏の葉の未来は提案出来ないのだと思いました。最終的な成果として、どれもが未完成になってしまったので悔しさが残りましたが、個人的にとても成長できたと思っています。また、後半は自分達の考えを伝える事の難しさも感じました。もっと素敵な未来なはずなのに、伝えられない事が悔しかったです。ただ、今回学んだことは、これから都市について考える上で必ず役立つと思っています。このスタジオに参加してとても良かったと思っています。先生方、TAの方には非常にお世話になりました。ありがとうございました。

▶ 池田 俊介 (東京理科大学大学院)



実はTalentFitのシステムの草案は都市デザインスタジオ以前からアイディアとしては漠然と思いついていたのですが、このシステムに合致する要件の敷地が無く、自分の中でお蔵入りの案となっていました。今回都心近郊・駅前周辺のまちづくりの手法としてTalentFitの概念が活かせたことはとても喜ばしいことでした。そして、まだまだ荒削りでありますが、このアイディアの1つのまちづくりのシステムとして可能性を模索することが出来て良かったです。

最後に、他のプロジェクトの作業との時間的な折り合いがつけられず、案を詰める時期に長時間話し合いに参加出来なくてチームメンバーには迷惑をかけてしまい申し訳ないと共に感謝しています。 メンバー二人努力無くして提案の完成は出来なかったはずです。萩原くん王さんありがとうございました。



Ⅰ王 彦(筑波大学大学院)

柏の葉における知的クラスターの構築という今回の課題において、 柏の葉キャンパス駅前を対象エリアとして選択しました。作業を進めていく中、課題の難しさと場所の難しさが感じられました。駅前という場所における知的クラスターの構築においては、この場所の特性を考慮しつつシステムの提案から、施設の利用者数や機能・ボリュームの検討等、空間の提案まで、いろいろ悩んできました。タレントフィットのコンセプトを決めた後、一般的なコミュニティ施設と比べて、どのようにすれば事業的にも空間的にも特徴のあるタレントフィットセンターを作っていくかについて、毎回の発表にて指摘や意見がたくさんもらえました。最終的な成果として、良くできている作品とはいえないですが、これまでの作業に通じて、場所の特徴を反映しながら新しいシステム・空間づくりのことについてとても勉強になりました。



Talent Fit -柏の葉にFitする-

1. 問題意識 Problems

現在、柏の葉では様々な市民活動が存在している。これらの活動は、UDCK・KFV・マンションの共益施設を拠点となっている。しかし、各々の施設には課題がある。UDCK移転に際し、課題整理を行い、新たな拠点を考える必要があるだろう。また、商業地域としてもっと収益を上げられる事や、駅前は人の発生集中する場であるので、交流機能をより効果的に利用していく事など、立地を活かしきれていない、と考えられる。

Currently, Kashiwanoha various civic activities are present. These activities have been based in UDCK, KFV, the common facility of Mansion. However, there is a problem in the facility, respectively. Would need to transfer upon UDCK, challenge to organize, think about a new base. It also is considered that are profitable more as a commercial area, front of the station so a place to concentrate the generation of people, and it will continue to more effective use of the feature interaction, and are not fit utilizing the location.

2. コンセプト Concept

タレントフィットー Talent Fit ー

地域資源である個人や組織の能力・才能(タレント)の活用や駅前 アクテビティの充実により、柏の葉地域における生活の質の向上を 目指す。

And by enhancing the use of activities Station, we aims to improve the quality of life in the region Kashiwanoha and organizations is a regional

resource.

3. 提案 Idea

柏の葉地域の住民や来街者のニーズに応えていく TF 事業を進めていくソフト整備、また、UDCK に代わる拠点施設とオープンスペースの再編のハード整備を行っていく。今回、私達の提案では3種類のTFの具体事例を示す。

In addition, software development projects to proceed TF that will meet the needs of visitors and local residents Kashiwanoha, we will continue to make the improvement of the restructuring of hard base facilities and open space to replace the UDCK. This time, our proposal shows a concrete example of the three types of TF.

4. 将来像 Vision of the Future

多様なニーズに応える TF 事業により、柏の葉における居住、労働、買い物、教育、交流など生活の様々な場面で、柏の葉は私に合っている、Fit している、という人が増加していく。柏の葉国際キャンパスタウンの実現に向けて、重要な施設になっていくと思われる。

By the project TF to meet the diverse needs in various situations of life residence in Kashiwanoha, work, shopping, education, and exchanges will continue to increase in people who are fit to me, Kashiwanoha says that they are the Fit. I think that the realization of international Kashiwanoha Campus Town, and will become an important facility.

タレント・フィットとは What is Talent fit?

概要

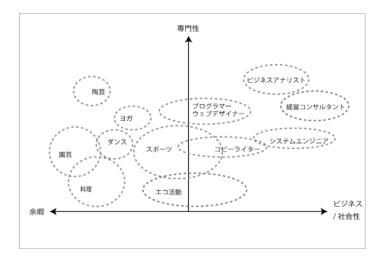
タレント・フィット(以下,TF)とは、個人や組織の能力・才能(タレント)を用いて、地域の需要・供給のニーズを一致(フィット)させていく事業である。これにより、地域には多様な交流が誘発されると考える。

Talent Fit (hereinafter, TF) using (talent) ability and talent of individuals and organizations, and is a business that will match the (fit) the needs of the supply and demand in the region. I think by this, and a variety of exchanges induced in the region.

タレントには、様々な分野が存在する。また、タレントの強度も 広がりがある。スポーツを例にすると、趣味レベルでスポーツクラ ブを組織している人と、コーチの資格を持っている人などが考えられる。

To talent, there are a variety of fields. Also, the strength of the talent spread. Using the example in sport, it is

considered an organization with people who have the hobby at the level of a sports club, and those who have qualified coaches.



柏の葉地域のタレントに関する情報は、「タレント・フィット・センター (以下、TFC)」にデータを集積し、管理を行っていく。

このデータベースを検索することで、行政や企業、市民は求める人材 を見つけていく。

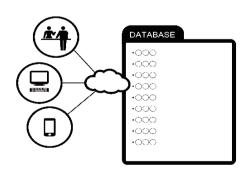
また、市民の出来る事(供給)だけではなく、困っている事・必要としている能力(需要)に関しての情報も集めていく。

"Talent-Fit Center (hereinafter, TFC)" to integrate data, information about the local talent Kashiwanoha, we will manage.

By searching this database, government and corporations, citizens will continue to find the talent you want.

In addition, we will also collect information regarding the (demand) capacity they need, it is not only (supplied), it can be a citizen in need.





インターネット上での検索も容易に行えるようにする。

To making it easy to search on the Internet.

具体事例 Examples

具体事例①保育



現状: ●柏の葉キャンパス駅から、500 m圏内に ある保育園・託児所は3つ

Kashiwanoha Campus Station, daycare, nursery school located within 500m, three

ーハローウィンパーティー 柏の葉子育てクラブ ー「人形劇だよ!~クリスマス会~」 「カシェット」 「季節の折り紙」 ー赤ちゃんと一緒に七夕飾り! バンビクラブ 一「離乳食を学ぶ!」 「絵本の読み聞かせと、手遊びの広場」 ※日・祝は休み ※日・祝は10~15時(要予約) ※日・祝は休み ベビー&ママのためのヨガ教室 ベビママ応探 -乳幼児のためのパパママ安全教室 プロジェクト ークリスマスミニコンサート

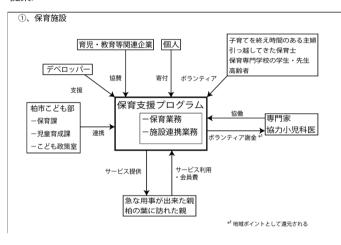
●日曜は基本的に閉園

Sunday is basically closed down

●クラブ活動はコミュニティ形成とレクリ エーションが主目的

Club activities and recreational community formation is the main purpose

提案:



提案する保育施設には専門スタッフ以外に、子育てを終えて時間のある 主婦等も、ボランティアとして関わってもらう事で、休日の預かりやス タッフ不足を補う。周辺施設と連携して、出張保育などのプログラム運 営を行っていく。事業費として、利用者からの会費、育児・教育関連の 企業からの協賛等を基に運営を行っていく。

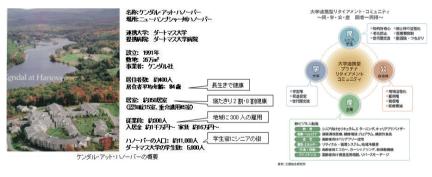
In addition to the professional staff, as well some of the time, such as housewives, by get involved as a volunteer, in the proposed child care facilities and staff make up for the lack of holiday luggage finished raising children. In conjunction with the surrounding facilities, we will continue to do business management programs such as childcare.

As operating expenses, we will continue to do operations on the basis of fees from users, and sponsorship from companies related to child rearing and education.

具体事例②高齢者・生涯学習

現状:

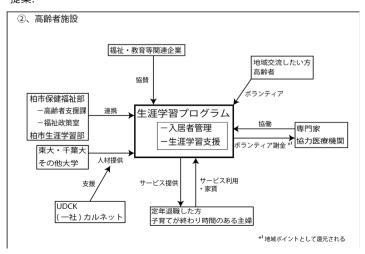
●高齢者専用の施設やコミュニティといった ものはあまり多くはない。



大学連携型リタイアメントコミュニティを考える。 定年を迎え退職(リタイア)された方達のコミュニ ティを形成し、生涯学習講座で学びながら、再びキャ ンパスライフを送る、といったプログラムである。 このプログラムでは、住民・大学・自治体・企業そ れぞれにメリットが生まれる。

I think the Federated University Retirement
Community. It is a program to build a community of
us who have been retired retirement (retired), while
learning in lifelong learning courses, such as sending
a campus life again. In this program, benefits are
born each local government, universities, residents
and companies.

提案:



生涯学習プログラムとして、大学の講義やTFCが主催する勉強会に参加する事ができる。また、東大・千葉大以外との学校とも連携し、出張授業を企画していくことで、様々な学習が受けられるようにする。大学との仲介にはUDCK等が入り連携していく。ハード整備と連携し、高齢者用のカレッジリンク住宅を整備していく。

Can be as lifelong learning programs, to participate in university lectures and study sessions organized by the TFC. Moreover, working with schools and non Chiba University of Tokyo, we are planning a class trip, I want to receive a variety of learning. Continue to work UDCK etc. contains the intermediary between the university. Developed in conjunction with hard, we will develop a residential college link for the elderly.

具体事例 Examples

具体事例③国際交流

現状:

●柏の葉には大学への留学生を始め、外国人の滞在・来街が多い。語学教室やクラブ活動などの国際交流は存在するが、地域のコミュニティとの関わりは薄いのが現状である。部分的な交流から、さらに輪を広げていく事が求められる。

Students begin to university, there are many city-stay foreigners come to Kashiwa. International exchange activities such as language classes and clubs exist, but at present, the relationship with the local community's thin. Be obtained from the partial exchange, we will further expand the circle.

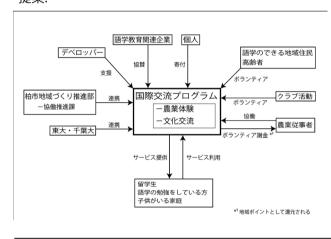




●語学教室では、少人数との関わりしか 持てない

Language in the classroom, not only have relations with a small number

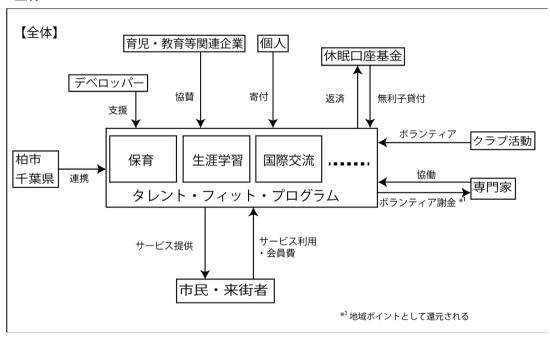
提案:



屋上農園での留学生向けの農業体験プログラムを行う。オークビレッジでの農園事業を残していく。栽培教室や収穫体験を行う中で、地域住民との交流を図る。クラブ活動にある自然に触れるプログラムで子供や地域と関わり、また千葉大の研究活動も取り入れ、大学との交流も計画する

Performed agricultural experience programs for international students in the rooftop farm. To leave the farm business in the Oak Village. In doing classroom experience growing and harvesting, in order to interact with local residents. Chiba also incorporated research activities, I plan exchanges with universities and research centers, and community involvement with the children in the program in club activities in contact with nature

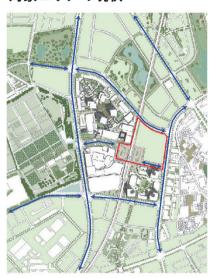
具体事例 • 全体



TFCに付属する具体的な施設として、現在行われているまちのクラブ活動や周辺施設の課題を解決し、それらの存在価値を向上させるものを提案する。これらは、ある特定分野でのTFを成立させる。今回の提案では3種類のTFを示したが、他のタレント事例に関してもTFは成立出来る。

Suggest something to solve the problems of the facilities of the town and the surrounding clubs as concrete facility that comes with the TFC, currently being carried out to improve the value of their existence. These, to establish a certain TF in the field. In this proposal showed the types of TF 3, TF can be established even for incidents other talent.

対象エリアの現状



【動線・車】

・線路と動線が、駅を中心とした周辺エリアを、4つの地区に分割している。

Flow line and the line has been divided into four districts, the surrounding area with a focus on the station.

・国道 16 号線・県道 47 号線と2本の主要な道路が通っている。それらを繋ぐ道路は交通量が多い。

Major roads and two-Prefectural Route 47 Route 16 has been through. There is a great deal of traffic on the road that connects them.



【動線・徒歩】

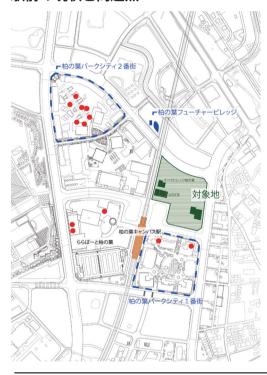
・147、148街区の中心をグリーンアクシスが通り、2つの街区を繋いでいる。

Green axis passes through the center of the city block 147, 148, connects the two city blocks.

・線路に沿った動線の利用 は、どちらも駅駐輪場、ら らぽーと駐輪場があるので、 人通りは多い。

Since the station bicycle parking, and bicycle parking LaLaport both, the use of flow lines along the line, the town is large.

駅前の現状と問題点



●暫定利用であるUDCK・オークビレッジ柏の葉について、今後の利用形態は未定。

For Kashiwanoha UDCK · Oak Village is the use provisional, pending future usage patterns.

●オープンスペース等のようなイベントの開催等に使うフリーに使える 空間が少ない。

Less usable space free to use for holding events such as such as open space.

●周辺施設まで屋根がないので、雨に濡れてしまう。

Because there is no roof around the property, I will get wet in the rain.

●駅前広場は高架下の店舗群に東西分断されている。

Station Square is divided into east and west group stores under the overpass.

などが挙げられる。



写真:TXアベニューが東西の駅前広場を分断 Photo: TX Avenue divides the square in front of

the east and west

デザインコンセプト



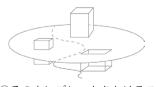
①一般的なコミュニティ施設は堅い壁で仕切られている。施設の内側だけでなく、外側も閉じられている。

General community facilities are separated by a solid wall. As well as the inside of the facility, it is also closed outside.



②壁を取り除き、従前のような施設内部の個室と外部空間の境を曖昧にし、それらを繋ぐためのセミパブリック空間を設ける。

Semi-public space is provided for removing the wall, to blur the boundary of outer space and the private room inside of the facility, such as the former, connect them.



③その上にプレートをかけることで、個室の機能が一つのプレートによって集約され、このプレートが人々の才能を演じる舞台となる。

By applying a plate on it, the function of the private rooms are aggregated by a single plate, and this plate stage plays a talent of the people.



④プレートを繰り返すことで、多様な空間が生まれる。それぞれの空間を通して、人々は自らの才能を演じ、人々と共有し、コミュニティを構築していく。

By repeating the plate, various space born. Through the space, each play their own talents, to share with people, people will continue to build a community.



空間整備 Spatial Plan

配置図



【広場】[Square]

駐輪場前にオープンスペースを作る。高架の反対側はホテルが出来るので、広場を作る事で人の流れを出来る。また、バスロータリーを 1/3 縮小する。駅前でのイベントや活動の拡大が望める。

Create an open space before the bicycle parking. The other side of the hotel can be so elevated, I can the flow of people by making a square. Also, reduce 1/3 of a bus roundabout. Expansion of events and activities in front of the station can be expected.

【テナントビル(TFC 入居)】 [Building tenants (tenants TFC)] TX アベニューをここに移転させる。今後、TF 事業の拡大に伴い、テナントに移転してもらい TFC を拡大していく。 TX Avenue to relocate here. Future, we will continue to expand with the expansion of the business TFC TF, have been transferred to the tenant.

【供用施設】 [Facility placed in service]

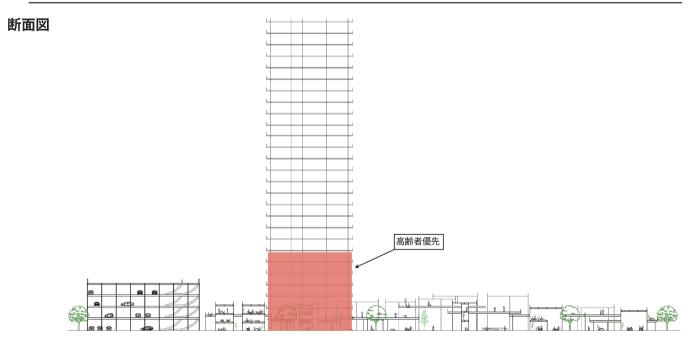
地域の市民活動等の活動拠点として利用される。また、保育サービスや生涯学習支援など、様々なプログラムを展開していく。中央の円形施設には、地域住民が自由にワークスペース等に使える部屋を用意する。

Is used as a base for activities such as civic activities in the region. In addition, we will expand and support lifelong learning and child care services, a variety of programs. Facilities of the central circle, which can be used to prepare the room and work space is free to local residents.

【高架下】[Under elevated]

TX アベニューを移転させる事で、高架下の抜けを作り、 東西の分裂を解消させる。

By the transfer TX Avenue, make a missing under the overpass, to eliminate the division between East and West.



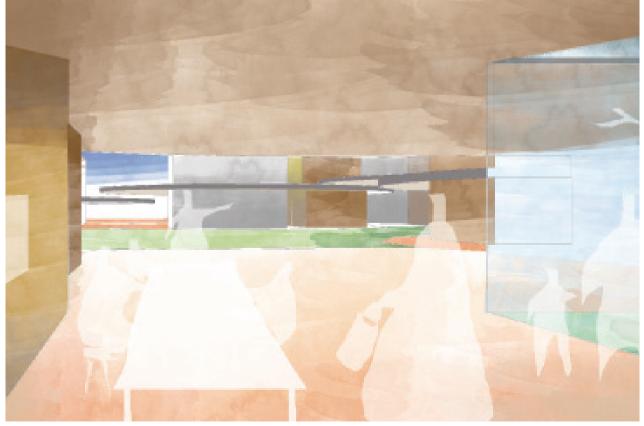
・タワーマンション

低層階には高齢者を入居させる。設定戸数の入居により、対象地区の必要人口を満たす事が出来る。

また、生涯学習では、基礎的な学習から大学の出張授業まで幅広い学習プログラムを提供する。

On the lower floors is to move the elderly. By setting the number of housing occupancy, you can meet the needs of the target area population. In addition, in lifelong learning, provides a wide range of study programs of university teaching from learning basic business trip.





整備フロー Construction Process

配置図 0期 現状 Present situation UDCK オラビレッジ (1) ハード:現 UDCK 施設の改修 Hard:Renovation of the current facility UDCK 1 期 (2) ソフト: 改修 UDCK 施設で TF 開始 Soft:TF start UDCK repair facilities (1) ハード:北側開発着手 Hard:Development undertaken north (2) ハード:北側開発竣工 Hard:Completed development north (3) ソフト : 新施設に TF および TX アベニュー (内の店舗) が移転 2期 Soft:TX relocation Avenue (in the store) and TF to the new facility (4) //ード: 改修 UDCK 施設、オークビレッジ施設、現 TX アベニュー 施設を解体 Hard:Decommissioning UDCK refurbishment, Oak Village facility, the facility currently Ave TX (1) ハード: 南側開発着手 Hard: Development undertaken south (2) ハード:駅前広場再整備着手 Hard: Undertake redevelopment Station Square 3期 (3) ハード: 南側開発竣工、駅前再整備竣工 0 Hard:Completion of the south side development, completion Station redevelopment

A+D GROUP

Sharing Kashiwanoha

STUDENT

Team - HOT in Japan (千葉大学大学院)

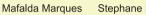














It is a great experience to work in UDCK to design a "real project" where you can observe the surroundings in a quite different culture from our homes. We realized lately what a great success you can get by working in a multinational team with different origins, especially when you have perfect mentors guiding and criticizing in all aspects to get an excellent deliverable.

Urban design for Kashiwanoha on a bigger scale provided us with the wonderful opportunity of working together and going through a phase when you learn by having different opinions and options which lead to different directions, and ultimately to come up with the best solution. On the other hand, another extremely interesting aspect was looking at other foreign and particularly Japanese students presenting different ideas. The UDCK supervisors played a vital role to keep us on the right track and to keep our innovating ideas moving ahead.

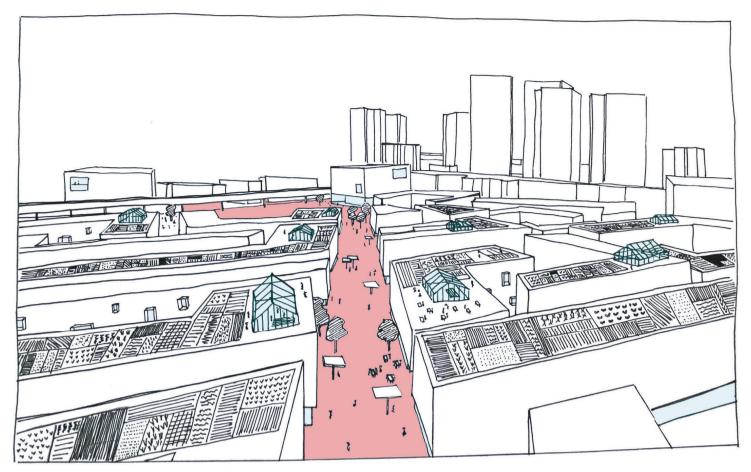
Every single one of us liked this studio class due to many reasons such as a good feedback on every stage. None of us did the urban design at such a high scale, and we never thought of such a proper management plan regarding such a project. What drove us into continuously working together as a team was the exciting opportunity to present our progress and discussions every week on different options. It was good to have two middle presentations, and have accomplished something at every stage. In fact, it brought up the challenging context to design Kashiwanoha, which on the one hand is closer to a big global

business, namely hub of Tokyo, but on the other hand needs todevelop its own identity, keeping in mind the modern technological developments and demographic needs of Japan.

Another important facet is to involve all shareholders, especially when you are expecting your final presentation audience to be from public, private and different concerned government bodies. So at the end, you are expecting mixed views and opinions. In this way, you really enjoy and learn something out of the box. We think this integration of different stakeholders is important for this urban design project. This is the way to incorporate everybody and to fully understand the ownership, in order to properly function later.

UDCK has really proven itself to be an epicenter of everything needed for urban design. Actual sites to be designed are found nearby, within its' surroundings. We got the facilities required to do the project all together under one roof. Whether it's the matter of guest lectures, required demographic data, printing or presentation facilities.

At the end, we would like to thank the whole UDCK team for their guidance and their dedicated cooperation. A very special place in this project belongs to our supervisor Mr. Jin Hidaka and Prof. Atsushi DEGUCHI whose valuable guidance and advice inspired us greatly to work on this urban design project. Their willingness to motivate us contributed tremendously in our project.



SHARING KASHIWANOHA

グローバル創造ハブ Urban Space Design Studio 2012

1. 問題意識 Problems

柏の葉について調査した結果、この開発途上エリアのアイデンティティ 創出が必須であると明らかになった。柏の葉は国際的なビジネスハブ(東京)と大変近くに位置していることから、先端技術を用いることに優れるとともに、日本の社会問題を解決していくことが求められる。本提案は、柏の葉のアイデンティティ創出、自家用車に頼らない交通システム、人々の交流を促進しもっとここに住みたくなるような仕組みづくりという3つの主目的をもつ。

The study of Kashiwanoha revealed the fact that there is a strong need to create an identity attributed to this reclaimed area. It is located quite close to a world business hub (Tokyo) which stresses for a high-tech solution, also demanding to sort out the social issues of Japan. The three main issues found are: 1.An identity for Kashiwanoha; 2.A transportation solution - less personal vehicles; 3.More social interaction - a preference for people to live.

2. コンセプト Concept

我々の計画は、東京のベットタウンという現在の柏の葉のイメージを、ソーシャルライフから得られるアイデアをテクノロジーに取り入れることで新しいモノやシステムを創出するクリエイティブ・ハブへと転換するコンセプトに基づく。多くの大都市が職住分離しているのとは対照的に、柏の葉では職住の統合したライフスタイルを提供していく。「シェアリング柏の葉」は住まい、仕事、余暇に必要とするものをすべて備え、このエリアに24時間かつ毎日賑わいを持たせるアイデアである。

Our development plan is based on the concept of changing the image of Kashiwanoha from a bed town for Tokyo to a creative hub by introducing the technological solution with a blend of social life. In contrary to many megacities where people prefer to live and work in different areas, Kashiwanoha shall provide Work-Life integration, a dual concept. The main idea of sharing Kashiwanoha is to keep the area busy 24/7 by offering all needed — Home, Work, Leisure. So, the people would love to be there, to own such a lifestyle.

3. 提案 Idea

「シェアリング柏の葉」:地域のコミュニティ、組織、企業、そして国際的なエキスパートが場所と設備をシェアすることで新しい柏の葉のイメージを活性化する。クリエイティブ・ハブとしての発展:研究センター、マーケティング、ヴィジュアルアーツという3つの機能を統合し、さらにそれを地域コミュニティに開きシェアする。柏の葉コミュニティポータル&タイムバンク:エリアにいる人の時間を、各人同等の価値で社会の要求に合致するように供給する仕組みとしてタイムバンクを導入する。人々はタイムバンクにより自分の時間で稼ぐことや時間の消費が可能である。タイムバンクは柏の葉コミュニティポータルというインターネットサービスでも利用可能とする。

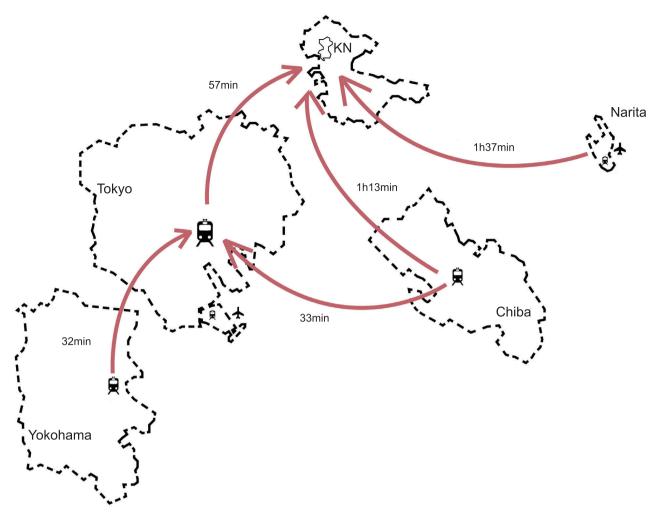
Sharing Kashiwanoha: Sharing of space and utilities to the local community, organizations and global experts to vitalize Kashiwanoha. Development as a creative hub: with three aspects – research centers, marketing & visual arts. These breakthrough concepts are sharing and showing off in big showcases to community. Kashiwanoha Community Portal & Time Bank: People will earn and spend time. Everybody's time will have the same value providing a chance to socialize and it will be available via an internet community portal.

4. 将来像 Vision of the Future

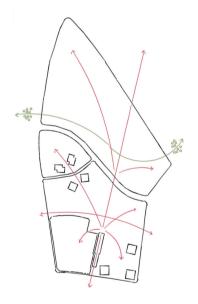
柏の葉は、テクノロジーだけでなくソーシャルなソリューションを提供 出来るクリエイティブ・ハブとして、人々を結びつけていく。人々が結 びつくことでお互いに助け合い、そこに相乗効果が生まれる。結果とし て柏の葉は、人々が生活と仕事をともにする魅力を持つまちという新し いイメージとともに発展していく。

Development to make Kashiwanoha a creative hub with technological and social solutions where the people are more connected with each other. A higher interaction and inter-dependency is found to be a reason to keep united and ensure things perfectly merge well together. Finally, developing a new image with an attraction to work and living within the same place, sharing space as much as possible.

地域分析 Research of Kashiwanoha



Site Potential | サイトのポテンシャル

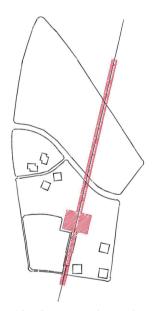


Most important pedestrian flow starting from the station;

Connection of existing ponds and green area throught site A.

最も重要な歩行者のフローは駅から発生する。

既存の調整池とサイトAを通る緑地をつなげる。



A public Square in front of the station to welcome people arriving in the station and connecting site D and A;

Promenade under the train track provides a shortcut through Kashiwanoha.

駅前広場は駅に到着した人々を迎え入れるとともに、サイトDとAをつなぐ。

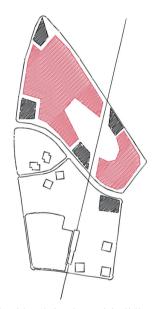
鉄道高架下ムナードは柏の葉内の 移動の近道となる。



Possibility to create points of interest in site D and A; Ground floor of Office buildings serves as an open space for fairs, attracting visitors to kashiwanoha.

サイトDとAにおいて人々の関心を引くスポットを創出する可能性・

研究またはオフィス用途建築物の 1 Fは、フェアやのために開放され、柏の葉の訪問者を楽しませる。



Residential oriented buildings with shared ground floor offering space for commercial and social activities. The showcases show and bring life in the streets. None of the buildings are directly north oriented.

住居用途の建築物は、1Fを商業と社会活動のためのスペースとしてシェアする。これらのショーケースは面する街路へ人々の生活を見せるとともに活動に巻き込む。

コンセプト Concept



People need some basic things to live happily like a job, healthy food, transportation means and a nice environment to live in. It is planned to get all these facilitated within Kashiwanoha.

仕事、健康的な食事、交通のような幸せな生活に必要となる基本要素と、 居住に良好な環境を人々は必要としている。これらが、柏の葉内です べて充足されるように計画を行う。



Public private partnership and private investments are proposed to get sufficient funds for research work and business.

官民連携と民間投資による研究や業務遂行に十分なファンド確保を提 案する。

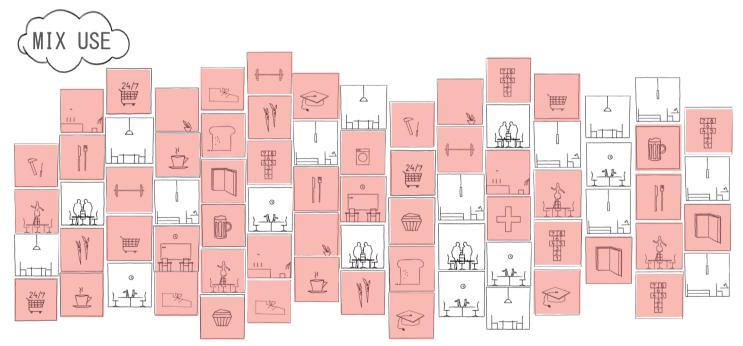


It is discouraged to use individual cars by providing shared cars and bicycles. Different building spaces and utilities are shared as well - like laundry facilities, meeting rooms, library, .. - among the community. シェアの自動車と自転車を供給することで自家用車の使用を抑制する。また、コミュニティやその他のステークホルダー間で、異なる建物同士の洗濯室、会議室、書斎のようなスペース及び設備もシェアしていく。



Residents of different background and interests are able to discuss the issues and help each other out through time bank.

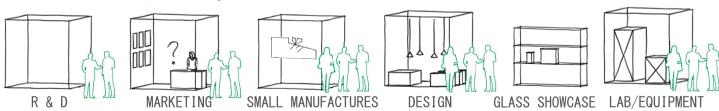
異なる背景や興味を持つ人々がタイムバンクを通して、問題について 議論したり、お互いに助け合うことができる。



All buildings we propose are designed for a mixed use. We combine offices, residences, shared facilities, restaurants and shopping all in the same building, In that way a 24/7 usage is guaranteed, what makes the city more dynamic and safe.

我々の提案する建物はすべて混合用途である。オフィス、住居、シェア設備、レストラン、商業機能が1つの建物に統合されており、24時間かつ毎日の利用が保証されている。このことは、柏の葉をよりダイナミックに、また、安全な都市にする。

How to attract companies? | 企業を誘致するには

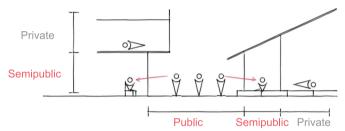


By providing R&D companies knowledge in how to design and sell their products, we try to create an interesting environment for to settle in. The marketing and design offices, which have that knowledge, also profit from this cooperation. We provide all companies and small manufacturers a showcase to exhibit what they are doing as a way of making free publicity. The inhabitants of our site, know in their turn what's happening in their city as well.

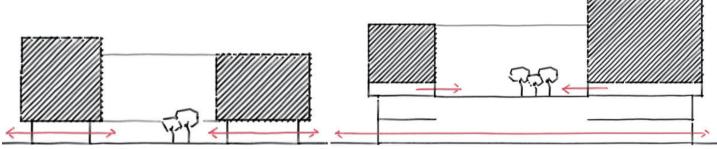
地域分析 Research of Kashiwanoha



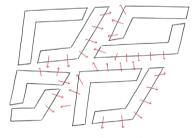
Sharing - Visual. Spatial. Functional | シェアリング - 視覚的・空間的・機能的に



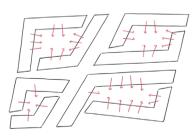
As in the traditional Japanese house, a transition space between public and private is taken into consideration and included. Those en - spaces are more of a social place, where neighbors gather and children play. The nure-en in Japanese houses protects the inhabitants from rainy days, permitting residents to enjoy their garden. This same concept is applied to the buildings in Kashiwanoha. By pulling back the showcases for two meters, the building itself functions as a roof, protecting the pedestrians from bad weather, all over our site. The showcases serve as the en-space, a place where community can gather any time of the day. Once you go up, a more private sphere is established.



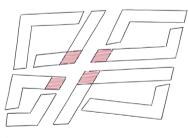
Schematic section of residential and office building | 住居及びオフィス用途建築物の断面図



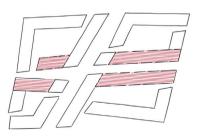
Relation Building - Street Commercial 建物と通りの関係性:商業



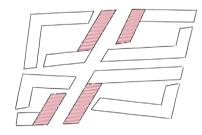
Relation Building - Courtyard Social 建物と中庭の関係性:交流



Corner service oriented サービス用途のコーナー



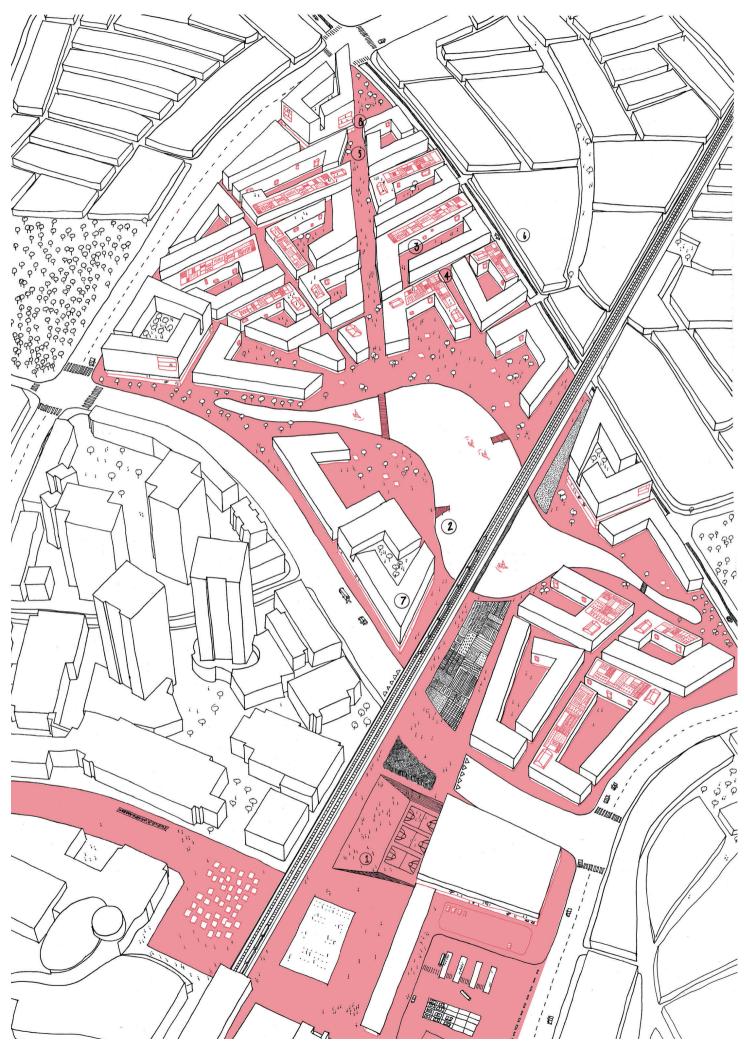
Secondary alley Lab / Hobby / Soho oriented 研究室/ホビー/SOHO用途の二次的な小路



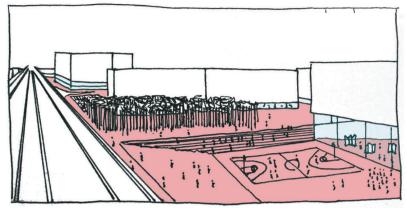
Major alley commercial oriented 商業用途の中心的な小路

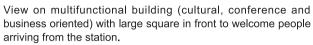
The relation in between the ground floor of the residential buildings differs if it's looking towards the street or courtyard. The courtyard is a semipublic space being more oriented to the social life. The streets are more oriented to commercial activities. The different characters of the streets will help organize the town, making it easy to find what each individual person - living in Kashiwanoha - needs.

鳥瞰図 Bird view

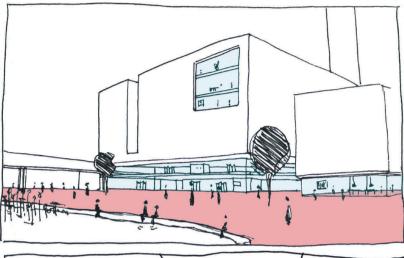


コンテンツ Contents



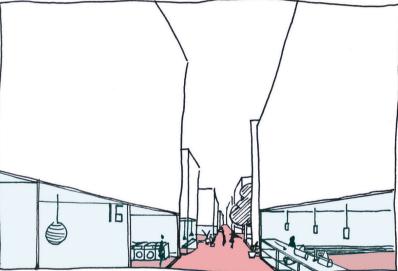


大きな広場を正面にもつ、多機能(文化、コンフェレンス、業務)の建築物は駅から訪れる人々を歓迎する。

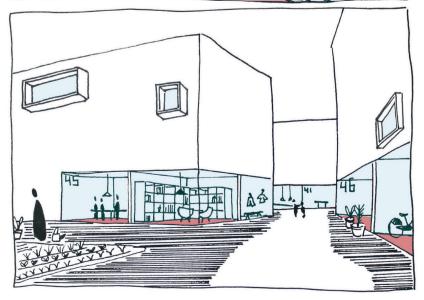


View on healthcare center + lake as the heart of the public space.

公共空間の中心にあるヘルスケアセンターと池。



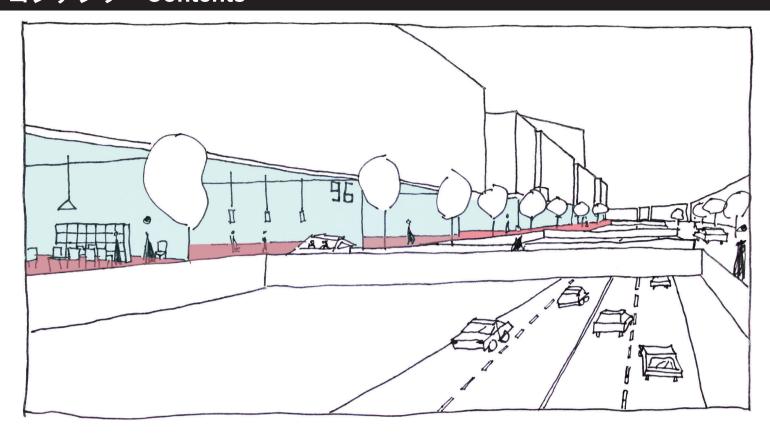
Open ground floor serves as a living showcase, challenging and inspiring the community of Kashiwanoha - ensuring dynamic streets - more commercially oriented, luring and inviting people. 生活のショーケースとして1F部分は開かれ、柏の葉のコミュニティを活性化する。また、商業用途が多く配置されることで、ダイナミックな街路が実現する。



Atmosphere of inner courtyards, ground level, is open and the shared space is more socially oriented.

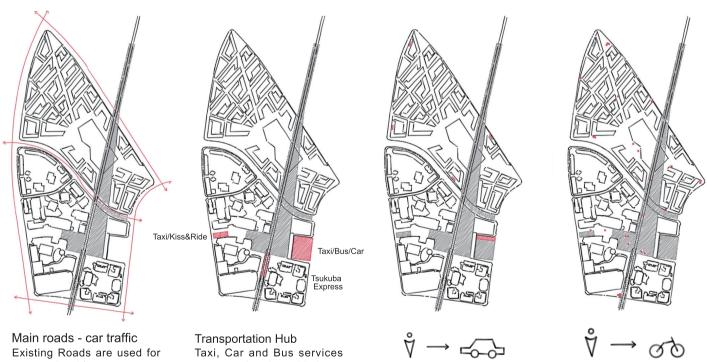
中庭の雰囲気: 1 F は開かれ、シェアされる。交流機能が多く配置される。

コンテンツ Contents



We made Route 16 lower, in order to insure the fluency again of the congested road. By dividing local and pass through traffic, the speed on the fast route can be increased and is no longer hindered by traffic lights. Local traffic is maintained on the ground floor. The connection between the two roadsides is improved. A safe and nice street brings pedestrians into the other parts of Kashiwanoha. Showcases facing the route 16 make the road more pleasant and offer a good environment for bigger offices.

国道16号は地下化することで渋滞を解消する。地域交通と通過交通を分けることで、急ぎのルートでは交通流が速くなると同時に、信号に妨げられなくなる。地域交通はこれまでどおり地上面に残る。ロードサイド同士の連結も改善され、安全で良好な街路により、歩行者は16号の向こう側へも回遊しやすくなる。国道16号に面したショーケースは通りをより快適にし、大きなオフィス用途に適した環境を提供する。

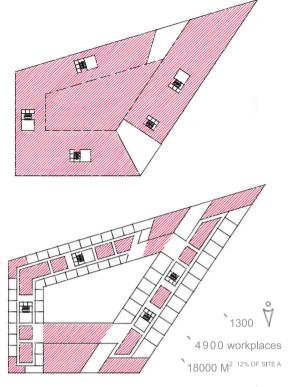


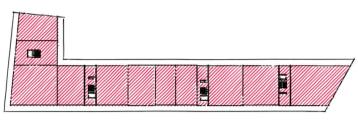
Main roads - car traffic Existing Roads are used for cars and public transport - The sites A and D are kept carefree as much as possible. 主要道路の車交通 既存道路は車と公共交通のために利用される。サイトAと Dは可能な限り車の乗り入れ

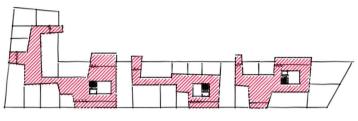
Taxi, Car and Bus services are moved and provided at a reasonable walking distance to avoid congestion in front of the train station.

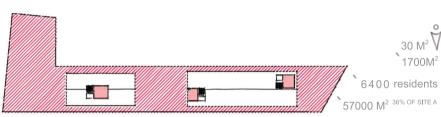
交通のハブ タクシー・車・バスのサービ スは駅前から歩いても無理の ない場所に移動し、駅前の渋 滞を防ぐ Shared cars and bicycles are available at respectively, a maximum of 3 min. and 1 min. walk from any point, giving all inhabitants of Kashiwanoha the freedomto move as much as they want, in the most efficient way. シェア自動車と自転車はそれぞれ、どのポイントからも歩いて最大3分と1分で利用できる。柏の葉の住民に最も効率的な方法で移動の自由を提供する。

を抑える。







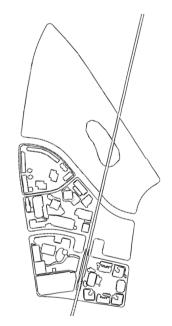


Schematic plan - office | オフィスの配置プラン

Schematic plan - residence | 住居の配置プラン

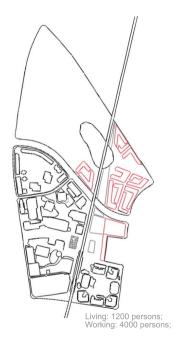


Perspective view - residence | 住居のパース図





Planning phase Total Area of site A: 205290m²; Total Area of site D: 4860 m²; フェーズごとのプランニング サイトA総面積:205290m²; サイトD総面積 4860 m²;



2015-2018

Development start with the connection of site D and A. The public building in site D which offers infra structure for several events that will promote a creative community.

サイトDとAをつなげることから 開発がはじまる-インテリジェン トな都市として、サイトD内の公 共建築やフェアのためのインフラ



2022

The second phase of development offers more space for office and residential connected by the excellent quality of dinamic and interactive public space.

第2段階のフェーズでは、質の良い、 ダイナミックかつインタラクティ ブな公共空間と連絡するオフィス と住居空間を計画していく。



2022

Time management and development management.

タイムマネジメントと開発マネジメ

Chapter4 総評

▍一般公開最終講評会 まとめ

一般公開最終講評会での意見交換の様子をまとめました。特別講師の方々をはじめとして参加者の方々から貴重なご意見をいただきました。

A group ご近所イノベーション

安藤先生: 非常に具体的に提案しており、全体としてバランスが とれていると思うがクリエイティブスタジオが現実的でないとい う気がした。近所の人と同じ活動をしなければいけないのか。

大野先生:賃貸か、共有持ち分として買うのかどうか。買うならば、 周りの住宅より高い値段で買わなければいけない。

学生:スタジオは家を買うとついてくる形で、入居の時にヒアリングを行いマッチングする。区画整理の推定人口を基にすると、対象街区には 2600 人入るはずであるが、数世帯集まるごとに、順次建てるようにした。

大野先生:マッチング次第では、入居者を入れていくプロセスも難しいのでは。国道 16 号沿いの集合住宅と誘致する会社は関係がないのか。

学生: わざわざここに住みたい意図を持つ人が集まる、その価値から企業が入ってくる。その人口増加に合わせてマンションも増やす。

大野先生:日本の企業は社宅を持たない傾向にある。この提案では職住近接を表に出してもいいのでは。また、退職金による高齢者ベンチャーは都内でやるのが現実的だと思う。戸建のような建築をオフィスにするなど、場所に個性がないと大学があるだけでは人は来ない。アーバンデザインのレベルであっても、建築をステレオタイプで動かしているだけでは魅力的にならない。

秋田先生: 戸建住宅をたてる理由は適切だが、郊外に立地することの意味やすでに住んでいる人のポテンシャルを考えても良かったのでは。

日高先生:また、運営組織のヒエラルキーもステレオタイプ、 UDCKのソフト版か?

出口先生: 先生方の指摘にあるように従来の枠組みを飛び出せていない部分があるが、議論のプロセスの中で考えたか。

学生:ヒアリングの結果より、既存の住民にインテリ層が多く、 提案街区内への活動に参加する人がいることを想定した。組織に ついては家と家、家とエリアマネジメントセンターが直接つなが る、ごちゃごちゃした関係で何かが生まれることも考えたがソフ トの話の空間への落とし込みが解決できなかった。組織概念図は 空間の規模における配置を支えるヒエラルキーととらえてほしい。

B-1 group みちの学校

出口先生:全体像がわかるようにプレゼンのやり方を工夫した方がいい。

大野先生:いい計画だと思うが、小学校というのはどうなのか。 廃材を使うのは酷な気がする。

高校生のほうが社会に接触する機会があるといいと思う。

小中学生の学校建築は頑張っているけど、高校のほうは受験におされてか、なかなか手を入れられていない。

高校の内容は僕たちも忘れてるし、コミュニティへの貢献など考えても、高校のほうがインパクトがあるのでは。あくまで思考実験だから。

学生: 高校程度のほうが、やれることが増えると思ったこともあったが計画上小中学校があることにとらわれていた。

日高先生: 頑張って描いているけど色の付け方に工夫がなく、立 体感をそいでいる。

大野先生:別荘地風の大規模住宅地が不思議だ。自然教育を想定していると思うが唐突感がある。

学生:野馬土手で出張して授業を行うことは考えている。住宅地の中にも教室の出張空間を設け、憩いの場として使える。

B-2 group Education Connecting

安藤先生:よいプレゼンができていた。失業者の話についてヨーロッパの問題が浮かんだ。また、高次の教育機関である大学との連携は考えているか。

学生:失業率については日本はヨーロッパほど悪化していない。 しかし、数の問題でなくインテグレートして考えたい。失業者を 学校にさらには、コミュニティに組み込みたい。大学との連携に ついては緑のネットワークで空間的にもつながると同時に学生や 退職した先生が、学校で教える仕事ができる仕組みを考えている。

大野先生:オフィス用途の建築の位置と大きさが気になった。

学生:密度もある、ペデストリアンエリアの部分に立地する。1階は地域の商店が入り、オフィスは上の階になる。新規のものを増やしすぎず、既存の空室を利活用したかった。

秋田先生:なぜ中学校の敷地を北に移動したか。

学生: 地域のメインアクセスを重視すると同時に工業地域とのバッファーとしたかった。中心部に計画した緑のコアにソーシャル面としても、ハード整備でも関連をもたせたかった。

C group IncuBETA -Farming Knowledge

大野先生:千葉大の農場の方に対する連続性が大事だと思うが、 それに対する提案は?

秋田先生:すでに千葉大の中に農業系のインキュベーション施設がある。農から一歩広げてもらえると役割分担できる。

学生: 千葉大とは農をテーマにした研究連携を考えていたが、農以外の分野との連携もできればと思っている。

出口先生:インキュベーター機能の設備を利用して他分野とつながるか。

学生: コアスペースは寮とインキュベータ施設をつなぐ図書館や 自習室など、共用で使う空間である。情報発信の機能としてコミュ ニティキッチンやマーケットスペースがある。 さらに、地域のイ ベントを広場に引き込むことは考えた。

秋田先生:人手不足で千葉大の施設は閉じているがより駅に近い方ので、この部分も考えてもらえるともっと面白い提案になる。 様々な施設があるのでこの場所こそエリアマネジメントの必要性があるだろう。

大野先生:市民という時に居住者だけでなく企業市民という考えもある。千葉・東大を活用できる場としてのポテンシャルを活かせるフレキシビリティや余地が残っているとよい。この提案は施設の位置づけが固定的だがインキュベーションは常に変化するものである。安い建物で、作り代えられるとよい。東葛テクノプラザのように高級だと賃料が高くなるか、高くしないと行政の負担が重くなる。

学生寮と一体なのは、インターンシップなど、様々な人に魅了的で良い提案である。

学生: 増築のダイヤグラムは用意した。インキュベーターの前にある千葉大の敷地も連携ということで想定した。

D group Talent Fit - 柏の葉を Fit する

日高先生:計画全体の中でタワーマンションに高齢者を優先している理由とここにある必然性は何か?マンションができることでタレントフィットの重要な部分となるのか。

容積をかせぐためだけにみえる。

学生:大学と連携したカレッジリンクをやりたい。対象を高齢者と考えて、他の大学も呼んで施設をつくり、事業を受けるように考えた。高齢者は今後増えていくが現在、受け皿のコミュニティが存在していない。タレントとして高齢者の力に注目した。

安藤先生:隣接した3~4の区画も含めて、駅前全体の使い方を示したか。単独の計画のようだが。

学生:駅が地域の人を集積する場所で拠点・事業の核となるべきとは思った。機能としては、ららぽーとと連携したり、1・2番街と連携を考えたが、空間計画における連携に対する考えは不十分だった。

A+D group Sharing Kashiwanoha

大野先生: 国道 16 号をアンダーパス化するようだが、道路沿いこ そビジネスチャンスがあるのでないか。ここから首都圏、八王子 や横浜につながる可能性を失うのでは。

学生: 車の側にとっても、200m ごとに止まるのは面倒、地域にとっては通過交通と分離したい。

大野先生:実現するには拡幅して広めの空間を設ける必要がある。 大がかりなことをする利点はなにか。

学生: 幅員が小さいサービスレーンを活用するつもりだ。また、ヨーロッパでは近年、郊外と都市を結ぶ渋滞に対する対策としてアンダーパス化を行う傾向にあり関連する技術も進化している。

大野先生:池の魅力をどのように魅力を活かすか。どの方向から も同じように見えるが、水辺との距離のとり方の工夫はあるか。

学生:ジオメトリックな形状を選んだ。また、例えば横浜のランドマークタワー周辺ではショッピングセンターや木製のデッキなどが人々を招き入れるデザインとなっておりここでも、様々なデバイスを使ってそのような効果を創出したい。水辺に近づいて座れるプラットホームやプレイグラウンド等がそれに相当する。

出口先生:地主がたくさんいる中で、開発のプロセスとマネジメントの方法をどう考えるのか。

学生:タイムメーキングやシェアのようなソーシャルな仕組みがあり、官民協働で取り組む。地主とディベロッパー、投資家でアソシエーションをつくり、売って終わりでなく30~50年間リノベーション等を行い維持したい。

大野先生:理想的ではあるが、誰がリスクをとるかという難しさがある。

学生:日本で力のある大ディベロッパーは駅近だからといって ショッピングモールや高層ビルを建てて終わっており、賛同でき ない。アジア的なものの考え方もあるかもしれないが、コミュニ ティに根差した方法のパイオニア的な提案としたい。

出口先生:大きな企業を誘致してくるのではなくて、日頃生活してる中でシェアできるものがあるのではないかという考え方からの提案で、リスクの問題が解決できるかは、シェアの中から生まれてくるプロダクト次第かもしれない。

全体講評

秋田先生:テーマが難しかったと思うが、郊外で成立する固有性を考えてくれるとより面白くなっただろう。ソーシャルミックスを考える上でも、エリアマネジメントは重要であると感じた。

柏市担当者の方:TX 沿線の開発について地域周辺の方、UDCK や企業と一緒にやっているが、今回さらに今後の学生の方々の自由な発想を生かしていきたい。

大野先生:全体的にいい出来だと思う。インキュベーションは非常に難しい問題で、政府も自治体もうまくいってない。 例えば東京湾のように大きなビルしかないような敷地では新しく起業はしにくい。マッキントッシュもアップルもガレージで始めているように、神田や本郷など小さなアパートがある所がやりやすい。柏の葉も新規開発地で大きな街区で構成されるが、敷地境界を少し広げることで近隣の雑然とした街区も内包し、起業プロセスの各段階に合った空間を用意できる多様性のある都市空間としなければ持続性がない。開発では作りつくすような最終像を目指すが、建てても売りにくい、そもそも建たないなどの問題が発生するため、ダイナミックに考えなければならない。さらに、30年前ならすべて政府が税金で賄うという考え方であったが、現在は資金調達のプログラムがないと成功しないのは国際的な常識である。きれいなプレゼンほど若干古めかしい印象も持った。

安藤先生: UDCK ならではの特権的なスタジオであるという感想を持った。ここを拠点に大学が地域と協働して考えることができる。また、柏の葉駅周辺は日本では珍しく発展している部分もある、若々しい地域であるとともに大学を中心に恵まれた資源もあり今回の課題の設定があり得る点でも特権的である。もう一点は、ヨーロッパでは失業の問題が深刻化しており職業訓練に大学も関連していることがある。日本も失業率に関して見かけより深刻化しているのではないか。高齢化も大きなテーマとしてあるが√知的活動クラスター」を考える際には、高齢者だけに目を向けるのでなく、目の前の活力とつなげるやり方が必要だろう。

建築的な表現については、思考ができておりよくまとまっている。良い課題なので、今回の批評を未来に繰り返していくとともっと良い 成果が得られるのではないか。

市民の方:*スタジオの取り組みができた頃から参加しているが、真剣に考えているからか、真面目な印象を受けた。また、資料を見てゆっくり考えてみたい。*今回テーマが様々にあったが、市民がどうしたらいいかと悩むコンセプトにすごく近づいており、ヒントになると思う。これからますます経験を積んで、ステップアップしてほしい。

スタジオを終えて -指導陣からのコメント-



▮清家 剛

東京大学大学院新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻 及び 東京大学工学系研究科 建築学専攻 (建築構法学) 准教授

今回の課題は敷地ごとに特徴があり、それぞれに対する個性的な回答を求めたものであったが、結果として提案に対する難しさも異なっていた。周辺も含めた条件が厳しい敷地では、その対応を実直に行っても、提案としての大胆さが表現できなかった班もあった。一方で敷地の自由度の高い場合は、のびのびとした提案になっていた。結果として多様な提案が示され、スタジオ全体としては活気のあるものになったと考えている。一方で敷地の選択が、それぞれの班の最終案に対する印象にも多少影響していたように思われる。

しかし、我々としては、そうした違いを見据えて、評価を行っている。提案内容を競うという点では、共通の課題のほうが望ましいだろうが、柏の葉キャンパス駅周辺の開発も進み、それぞれの場所で多様な課題が見えてきた現在は、今回のようにスタジオ全体として様々な内容を包含したような進め方が望ましいと考えている。そうであれば、自分の敷地以外の課題への取り組み方について、学生がディスカッションして、スタジオ全体で問題意識を共有するような進め方を検討した方がいいのかもしない。



▮清水 亮

東京大学大学院新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻 (地域社会学) 准教授

「知的活動クラスターのデザイン」という今回の課題は、 柏の葉地区の特性と今後の可能性を考えると実に興味深い テーマである。だが、そもそも「知的活動」とは何を指す のであろうか。

4~5年前、国土交通省が「知的生産性研究委員会」なる 組織を立ち上げ、数年にわたって知的生産性を上げるため の空間・建築づくりを議論していた。この組織は建築のイ ノベーションを目指す趣旨ではあったが、「知的生産」そ のものをどのようにとらえるかといった視点からの議論もなされていたと聞く。社会文化環境学専攻の修士学生で、これに関連する修士論文を書いた者がいる。副指導教員として関わったが、その際には「知的生産」のとらえ方から始まって様々な議論をお互いに交わして、実に刺激的な経験であった。

今回のスタジオでは、提案の考案プロセスにおいてそのような議論がどれほどなされたであろうか。もし不足していたとしたら、その提案は説得力に欠けよう。また、十分に議論したと実感していたならば、その議論が成立した前提条件をよく考えてみよう。こうした議論こそが、知的活動にほかならないのだから。



|日高 仁

建築家 (SLOWMEDIA)、東京大学客員共同研究員 東京大学、東京理科大学 非常勤講師 UDCK 柏の葉アーバンデザインセンター フェロー

これまで、都市環境デザインスタジオでは、UDCKの外に立ち並ぶ小さな公共施設「PLS」(2007年度成果)をはじめとして、スタジオの成果を実際にまちにフィードバックしてきた経緯がいくつかある。

今回の「知的活動クラスター」という課題は大変興味深いものであり、まさに今の柏の葉地域に必要なテーマであるが、実は、UDCKで行っている都市環境デザインスタジオ自体が、大変価値のある知的活動クラスターであるといえる。特に、半数にも及ぶ留学生の自由闊達な着想とその成果を生かしきれずに、単なる学生課題として終わらせるのは惜しい気がする。

例えば、留学生たちは毎年UDCKの活動に参加している、が、彼らが不便なのは自身の通う千葉大学などの大学からUDCKまで遠く、地域に密着して課題に取り組みたくても難しい状況である。UDCK付近に、こうした学生たちや教員、地域住民などが交流し、さらに宿泊できるような場所があったらどんなに良いだろうか。暖かいテーブルや暖炉夏は涼しいテラスなどで時間を気にすることなくさまざまな人々が交流し、その成果をまちに還元することができるような交流・滞在・展示のための場。そこからまちづくりや地域ビジネスがスタートするという状況をつくるのに、UDCK+既存施設の利活用や空き家の改修などで十分かもしれない。来年あたりやりませんか?



L三牧浩也UDCK副センター長

今年のスタジオ課題「知的活動クラスター」とは、多様な「知識」をもった人たちが集まり、「知的交流」が活性化し、そこにまちの新たな「文化」や「産業」が生み出されていく地区といったイメージだろう。

インキュベーション機能や人々が集まる広場的空間を中 心に地区を構成していくイメージまでは各グループ共通し ている。その上で、いかに、特徴的なコンセプトを持ちこ むか、土地利用・都市機能の配置を工夫するか、地区の特 徴・地域資源を組み込むか、新たな空間的仕掛けを入れる むか、あるいは新しいソフトを提案するか、といったとこ ろで、各グループ様々な議論がなされた。シェアをキーワ ードに24時間人の活動や都市の機能をつなぐという発想 は発展的に地区にも取り入れられるはずであるし、コミュ ニティからイノベーションを起こしていくことも、この街 では可能性はある。新しい中学校のイメージも大きく広が ったし、「キャンパスタウン」の中心の新たなシンボル・ ハブも魅力的な提案である。例年のスタジオと比べても、 街区構成や道路線形、オープンスペースとの関係等につい ての議論が良くなされたことも、「都市環境デザインスタ ジオ」としては良かった。

一方で、より踏み込んでまちや人を調査し提案・議論し地域の関係者に評価してもらいたかったというのは、当方の力不足を含めた反省である。これは次年度以降の課題として、スタジオ受講生皆さんの努力と提案は評価したい。



■田中 大朗

UDCT(田村地域デザインセンター)副センター長

各班とも難しい課題に対して力のこもった提案がなされたと思う。私の担当したB班では、今後新設が予定されている中学校を対象として、学ぶ場をいかに地域に開いていくか、をテーマに設定し、最終的には中学校の新設自体の必要性を問うような提案となり、意欲的なものになったと思う。一方で、スタジオ全体のテーマである「知的活動クラスター」とはどのようなものなのか。広く捉えられてはいたが、深く掘り下げる部分が弱かったように感じた。現状分析・テーマ抽出の段階では、住民の声や現実の状況に

向き合い、戸惑いながらも取り組んでいた。しかし、提案 に落とし込む段階では、そういった現実的な面から離れて しまった印象があった。

時には現実に縛られない思い切った飛躍も必要だが、その中でも常に現実的な状況に立ち戻りつつ、その中から新しい発見をしながら提案を考えていくことが、様々な要素が絡み合う都市のデザインにおいては、特に重要である。提案の段階だけではなくプレゼンテーションにおいても、どのような表現や伝え方にすれば現実に対して力をもつか現実を変えていけるのか、を意識しながら進めていくことが必要だと思う。



▶大島 耕平

新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻(建築設計学) 特任助教

留学生チームはアーバンデザインに良く慣れているという印象が強かった。この点を日本の学生は大いに学ぶべきだ。演習開始早々の事例収集ですでに差が付いているように思われた。専門外の学生も含めて、世の中で行われている地域のとりくみや都市再開発プロジェクト、その他の社会問題について広く教養を培う必要がある。

留学生チームをはじめとしていくつかのチームは、その 敷地にどのような建物を建てるか?という、戦術的なレベルの提案としては優れたものもみられた。しかし、より高い次元にわたる戦略的な視点、たとえば、歴史的・文化的な文脈から想像される「近未来の社会のあり方」の提案にまで辿り着けるとことが本来の目的である。これが、今後の大きな課題になろう。

大学や研究所を中心とした学園都市の過去の事例をあげてみると、筑波や神戸をはじめいくつもある。しかし、いずれもみどり豊かな郊外の都市という域をでてない。産学連携の知的産業を中心とし、さらに住民活動とも連携を図ろうというテーマは、かつて20世紀初頭に提唱された工業都市、それと対の関係にある田園都市の延長線上ではとらえることができない、全く新しい概念として扱われるべきだ。

デザインスタジオと銘打っているだけあり、人目をひく プレゼンテーションや流行のスタイルの応用に長ける学生 もいる。確かにそういったスキルを身につけることも本ス タジオの重要なテーマだが、さらに高いレベルに引き上げ ることも目指しつづけなければならない。そのためには、 幅広い教養や情報のインプットに対する貪欲さが必要なの ではないだろうか。



┃岡本 祐輝

UDCK ディレクター

「知的活動」をどう捉えるか、それが本演習課題の本質 だろう。

各課題対象敷地に応じて課題書に事前提示されていた知的活動クラスター例は、取っ掛かりとしては良かったのかもしれないが、もう少し多岐にわたる知的活動の可能性を探った上での提案内容絞り込みをしても良かったのではないかと思う。いくつもの知的活動がこの街に既に展開しており(それぞれに問題を抱えながら取り組んでいるのが実態だろうが)、そうした既存の活動が、新たに提案する知的活動とどういった関わりを持つのか。知的地域コミュニティ(いわゆる"住民"だけでなく、この街における公・民・学の各プレイヤー)に対する説得力が増したのではないかと思う。

さらに言えば、課題対象地を超えた提案まで欲張って 含めても良かったのではないだろうか。演習授業という 教育プログラム上、各班課題として与えられた対象敷地 に対しては、当然何かしら関係する提案は必要である。 しかしながら知的活動は、何も課題対象地の敷地境界線 の中だけで閉じたものである必要はなく、昨今は空間を 必要としない(空間の制約を受けない)知的活動も現実 にある。空間提案であったとしても、演習課題設定の枠 組みを超越した提案のほうが、都市の実フィールドに適 した将来像なのかもしれないし。

たかが思考実験、されど思考実験なのだから。



■原 裕介

東京大学生産技術研究所 川添研究室 特任助教

今回の「知的活動クラスター」という課題において、地域の創造的活動の芽を見つけ出すことが最も重要な要素の一つであり、かつ難しい点であっただろう。特に、海外からの留学生にとっては慣れない土地でその地域特性を把握することは、困難を極めたと思うが、大半の学生が充実した成果をあげることができたことは称賛に値する。

創造活動やベンチャービジネスなどの活動は文字面から 受ける印象とは裏腹に、その産声はとても小さく、一般に は届かない程に微かなものである。今回の課題では、その 微かな声を見つけ出し、大切に育て、発展させてゆくため の空間を段階的に描くことが求められていたと思うが、提 案の多くはその初期段階の誘導に対しての言及が少なかっ たように見受けられた。

これまでに比べて簡単に起業や文化活動ができるようになり、普段の生活と創造活動が混在しつつあるなかで、生まれたばかりの創造活動を繋ぎあわせて発展させるためには、その産声を聞き逃さない繊細で緻密なソフトの活動があってこそ、空間が活きてくるように思う。

このスタジオ課題は住環境を考える上でとても示唆に富んだ内容なので、学生諸君には継続的に意識し続けてくれることを期待している。



■伊藤 香織

東京理科大学理工学部建築学科 准教授

今年は残念ながら日程が合わず、毎週参加することができなかったため、中間発表会、最終発表会、最終報告会を見てのコメントとなる。

これまで数年間の都市環境デザインスタジオでは、居住が課題の主眼に置かれることが多かったが、今年度は「知的活動クラスター」のテーマで、産業も含んだ今後の地域のあり方を考える新たな取り組みとなった。

敷地によって異なる課題に対して各グループが答えようとしたため、「知的活動」のバリエーションが見えたことは興味深かった。しかし、学生自身に(そしておそらく私を含むティーチングスタッフも)郊外地域に根付いた知的活動がイメージしきれていなかったように思われる。大学関連の敷地のグループが比較的妥当な提案となったのも,具体的イメージのしやすさと関係しているだろう。また,課題では施設等の空間整備を伴う提案が要求されていたが、この点に苦心したグループも見られた。

今年度残念に思ったのは、報告会に地域からの参加が 少なかったこと。地域の方々へのヒアリングをしている グループも少なからずあったのだから、あらためて招待 すべきだっただろう。実際の地域の中で、地域と意見交 換しながら、都市を構想していくことが、都市環境デザ インスタジオの特長であると考えている。ティーチング スタッフの一人として今後その点に留意していきたい。

編集後記

金 令牙

東京大学大学院新領域創成科学研究科 出口研究室 博士課程

都市スタジオの内容もブックも年とともに進化していくのではないかと思います。一介のTAでありますが、今年の提案を評価するなら、前年度より完成度が高い提案がより多かったと思います。今年は例年よりプログラムが多様でありまして、先生をお招きレクチャーを聴いたり、見学したりして、知的クラスターに関する知識をより積み重ねるチャンスになりました。

半数を超える外国人学生のために準備できた英文の課題書や英文の毎週リマインドメールなど、細々な作業で時間を取らせたこともありましたがそれほど愛着を感じるスタジオでした。来年もより進化した都市スタジオになることが楽しみです。

┃三浦 詩乃

TAとして本スタジオに関わらさせていただく機会をいただきまして、私自身にとっても大変勉強になりました。

昨年は受講者として参加させていただいたのですが、その 経験もあり、2012年度の提案の完成度の高さに刺激を受けま した。

豪華な指導陣の先生の下で、講座の補佐に徹し、皆さんの 提案内容については傍観者でありつづけた本年でしたが、2 年間連続してそのプロセスを見ることにより、共通して学生 の方々が悩むこと、最終発表まで気づかないことがあるなと 感じました。この気づきを活かして、またの機会があればも う少し踏み込んだTAのあり方もアリだなと思った次第です。

$\overline{\text{IEDP}}$ Integrated Environmental Design Program

東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学系共通科目 環境デザイン統合教育プログラム 都市デザインスタジオ 2012

柏の葉アーバンデザイン アイディア・ブック 7

2013年3月発行

 編集
 金 令牙 三浦 詩乃

 監修
 出口 敦 三牧 浩也

発行 東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学研究系

協力 柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK)



Urban Design Center Kashiwa-no-ha